

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年6月24日
【事業年度】	第57期（自平成24年4月1日至平成25年3月31日）
【会社名】	株式会社リョーサン
【英訳名】	Ryosan Company, Limited
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 三松直人
【本店の所在の場所】	東京都千代田区東神田2丁目3番5号
【電話番号】	03(3862)2591（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役経本部長 佐野秀一
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区東神田2丁目3番5号
【電話番号】	03(3862)2591（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役経本部長 佐野秀一
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次 決算年月	第53期 平成21年3月	第54期 平成22年3月	第55期 平成23年3月	第56期 平成24年3月	第57期 平成25年3月
売上高 (百万円)	220,871	194,377	216,154	217,887	206,534
経常利益 (百万円)	7,263	5,312	6,883	4,476	4,111
当期純利益 (百万円)	3,919	2,867	4,130	1,899	2,814
包括利益 (百万円)	-	-	3,181	1,812	4,687
純資産額 (百万円)	116,499	117,263	117,780	115,691	116,722
総資産額 (百万円)	148,987	161,593	163,479	167,079	160,220
1株当たり純資産額 (円)	3,376.78	3,398.82	3,413.87	3,457.13	3,595.42
1株当たり当期純利益金額 (円)	111.83	83.21	119.85	55.90	84.40
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	78.1	72.5	72.0	69.2	72.9
自己資本利益率 (%)	3.3	2.5	3.5	1.6	2.4
株価収益率 (倍)	18.3	28.6	16.7	29.8	21.4
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	15,033	4,361	7,797	8,356	17,689
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	3,540	639	474	936	2,485
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	4,240	3,113	929	419	4,483
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	50,003	50,458	43,239	34,113	50,463
従業員数 (名) 〔外、平均臨時雇用者数〕	1,115 〔82〕	1,088 〔181〕	1,211 〔100〕	1,151 〔80〕	1,113 〔66〕

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 従業員数は、就業人員を記載しております。

3 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次 決算年月	第53期 平成21年3月	第54期 平成22年3月	第55期 平成23年3月	第56期 平成24年3月	第57期 平成25年3月
売上高 (百万円)	165,580	151,578	161,035	160,606	145,019
経常利益 (百万円)	6,085	4,683	5,239	4,649	2,768
当期純利益 (百万円)	2,974	2,701	3,168	2,157	1,940
資本金 (百万円)	17,690	17,690	17,690	17,690	17,690
発行済株式総数 (千株)	34,500	34,500	34,500	34,500	34,500
純資産額 (百万円)	106,948	108,009	108,269	106,687	105,123
総資産額 (百万円)	133,428	143,796	141,931	142,909	137,309
1株当たり純資産額 (円)	3,102.97	3,133.81	3,141.41	3,188.08	3,238.12
1株当たり配当額 (円)	80	60	80	40	60
(内1株当たり中間配当額) (円)	(40)	(20)	(40)	(20)	(30)
1株当たり当期純利益金額 (円)	84.87	78.39	91.94	63.49	58.19
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	80.3	75.1	76.3	74.7	76.6
自己資本利益率 (%)	2.7	2.5	2.9	2.0	1.8
株価収益率 (倍)	24.2	30.4	21.8	26.2	31.0
配当性向 (%)	94.3	76.5	87.0	63.0	103.1
従業員数 (名)	761	675	716	706	674
[外、平均臨時雇用者数]	[45]	[55]	[58]	[57]	[53]

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 従業員数は、就業人員を記載しております。

3 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【沿革】

- 昭和28年11月 東京都千代田区神田末広町に有限会社菱三電気を創立  
32年3月 株式会社に改組し、株式会社菱三電気を設立  
34年1月 本社を千代田区神田松住町に移転  
38年10月 株式会社菱三貿易を設立  
12月 本社を千代田区外神田（現外神田ビル所在地）に新築移転  
41年3月 行田工場を設置  
43年7月 行田工場にてヒートシンク（半導体素子用放熱器）の製造開始  
49年2月 HONG KONG RYOSAN LIMITED（現、連結子会社）を設立  
51年6月 SINGAPORE RYOSAN PRIVATE LIMITED（現、連結子会社）を設立  
54年1月 RYOTAI CORPORATION（現、連結子会社）を設立  
55年4月 株式会社鶴製作所を吸収合併し、上野原工場を設置  
56年10月 社名を株式会社菱三電気から株式会社リョーサンへ変更  
58年7月 東京証券取引所市場第二部へ上場  
61年3月 東京証券取引所市場第一部に指定替え  
63年4月 株式会社菱三貿易を吸収合併  
平成4年1月 株式会社ウィル・ビジネスサービスを設立  
4月 RYOSAN ENGINEERING (M) SDN. BHD.（現、連結子会社）を設立  
7年6月 RYOSAN ENGINEERING (THAILAND) CO., LTD.（現、連結子会社）を設立  
8年4月 RYOSAN TECHNOLOGIES USA INC.を設立  
9年11月 ZHONG LING INTERNATIONAL TRADING (SHANGHAI) CO.,LTD.（現、連結子会社）を設立  
11年11月 川崎総合業務センターを設置  
12年3月 本社を千代田区東神田の本社ビルに移転  
4月 株式会社イーシーリョーサンを設立  
13年2月 KOREA RYOSAN CORPORATION（現、連結子会社）を設立  
11月 RYOSAN (THAILAND) CO.,LTD.（現、連結子会社）を設立  
14年4月 セントラクト株式会社（現、連結子会社）を設立  
7月 RYOSAN IPC (MALAYSIA) SDN.BHD.（現、連結子会社）を設立  
12月 DALIAN F.T.Z RYOSAN INTERNATIONAL TRADING CO., LTD.を設立  
16年11月 RYOSAN ELECTRONICS (FOSHAN) CO.,LTD.を設立  
20年2月 SHEN LING ELECTRONICS (SHENZHEN) CO.,LTD.を設立  
20年11月 株式会社サクシス（現、連結子会社）を設立  
11月 株式会社ジャイロニクス（現、連結子会社）を設立  
24年3月 RYOSAN EUROPE GMBHを設立

### 3【事業の内容】

当社グループは、当社、連結子会社12社、非連結子会社8社で構成されております。

当社は、半導体・電子部品・電子機器の専門商社として国内外の電子機器メーカー等の得意先に対し、商品の販売及び自社製品の開発・生産・販売を行っております。

事業内容と当社及び連結子会社の当該事業における位置付けは、次のとおりであります。

なお、次の事業区分は「第5 経理の状況 1(1) 連結財務諸表 注記」に掲げるセグメント情報の区分と同一であります。

事業区分	主要取扱商品・製品名	販売会社	開発・生産会社
半導体事業	・メモリ ・システムLSI ・個別半導体	当社 セントラクト株式会社 株式会社サクシス	
電子部品事業	・表示デバイス ・電源 ・機構部品	株式会社ジャイロニクス HONG KONG RYOSAN LIMITED ZHONG LING INTERNATIONAL	
電子機器事業	・システム機器 ・設備機器	TRADING (SHANGHAI) CO.,LTD. SINGAPORE RYOSAN PRIVATE LIMITED	
生産事業	・ヒートシンク (半導体素子用放熱器)	RYOTAI CORPORATION RYOSAN IPC (MALAYSIA) SDN. BHD. RYOSAN (THAILAND) CO.,LTD. KOREA RYOSAN CORPORATION	当社 RYOSAN ENGINEERING (M) SDN. BHD. RYOSAN ENGINEERING (THAILAND) CO.,LTD.

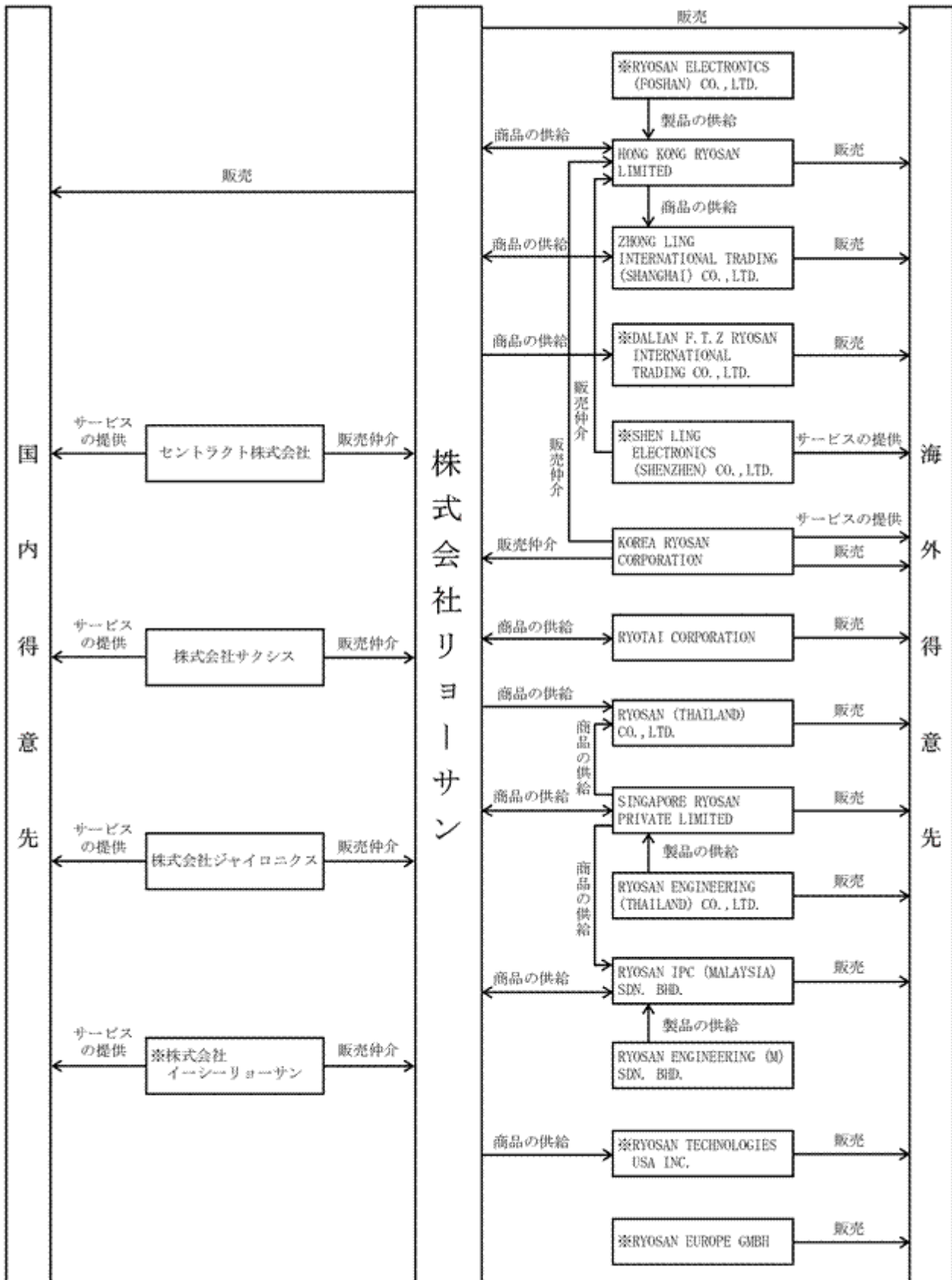
(注) セントラクト株式会社は平成25年3月1日付をもって解散し、清算手続中であります。

また、主な非連結子会社の名称及び事業内容は以下のとおりであります。

< 非連結子会社 >

名称	事業内容
株式会社イーシーリョーサン	電子部品のコミッションセールス
RYOSAN TECHNOLOGIES USA INC.	半導体・電子部品の販売
DALIAN F.T.Z RYOSAN INTERNATIONAL TRADING CO., LTD.	半導体・電子部品の販売
SHEN LING ELECTRONICS (SHENZHEN) CO., LTD.	半導体・電子部品のコミッションセールス
RYOSAN EUROPE GMBH	半導体・電子部品の販売
RYOSAN ELECTRONICS (FOSHAN) CO.,LTD.	ヒートシンクの製造・販売

以上に述べた企業集団等の概要図は、次のとおりであります。



(注) 無印は連結子会社、 印は非連結子会社で持分法非適用会社

4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金	主要な事業の 内容	議決権の所有又は被 所有割合		関係内容
				所有割合 (%)	被所有割 合(%)	
(連結子会社) セントラクト株式会社	東京都千代田区	百万円 10	半導体事業	100.0	-	当社の販売仲介 当社所有の建物を賃借 当社より資金の借入 役員の兼任等..... 1名
株式会社サクシス	東京都千代田区	百万円 10	半導体事業	100.0	-	当社の販売仲介 当社所有の建物を賃借 役員の兼任等..... 1名
株式会社ジャイロニクス	東京都千代田区	百万円 10	半導体事業	100.0	-	当社の販売仲介 当社所有の建物を賃借 当社より資金の借入 役員の兼任等..... 1名
HONG KONG RYOSAN LIMITED	香港	千香港ドル 5,000	半導体事業 電子部品事業 生産事業	100.0 (1.0)	-	当社が商品・製品納入、 当社に商品納入 借入に対する経営指導念書の差 入れ 役員の兼任等..... 1名
ZHONG LING INTERNATIONAL TRADING (SHANGHAI) CO.,LTD.	中華人民 共和国	千人民元 27,964	半導体事業 電子部品事業	100.0	-	当社が商品・製品納入、 当社に商品納入 借入に対する経営指導念書の差 入れ 役員の兼任等..... 2名
SINGAPORE RYOSAN PRIVATE LIMITED	シンガ ポール	千シンガ ポールドル 1,460	半導体事業 電子部品事業 電子機器事業 生産事業	100.0	-	当社が商品・製品納入、 当社に商品納入 借入に対する経営指導念書の差 入れ 役員の兼任等..... 1名
RYOTAI CORPORATION	台湾	千ニュー 台湾ドル 80,000	半導体事業 電子部品事業 電子機器事業	100.0	-	当社が商品・製品納入、 当社に商品納入 当社の販売仲介 借入に対する経営指導念書の差 入れ 役員の兼任等..... 3名
RYOSAN IPC (MALAYSIA) SDN. BHD.	マレーシ ア	千マレーシア リングギット 1,000	半導体事業 電子部品事業 電子機器事業 生産事業	100.0	-	当社が商品・製品納入、 当社に商品納入 借入に対する保証書の差入れ 役員の兼任等..... 1名

名称	住所	資本金又は 出資金	主要な事業の 内容	議決権の所有又は被 所有割合		関係内容
				所有割合 (%)	被所有割 合(%)	
(連結子会社) RYOSAN (THAILAND) CO.,LTD.	タイ	千タイバーツ 12,000	半導体事業 電子部品事業 電子機器事業	100.0	-	当社が商品・製品納入、 当社に商品納入 借入に対する経営指導念書の差 入れ 役員の兼任等..... 1名
KOREA RYOSAN CORPORATION	大韓民国	百万ウォン 1,000	半導体事業 電子部品事業 電子機器事業	100.0	-	当社が商品・製品納入、 当社に商品納入 当社の販売仲介 当社より資金の借入 役員の兼任等..... 3名
RYOSAN ENGINEERING (M) SDN. BHD.	マレーシ ア	千マレーシア リングギット 2,000	生産事業	100.0	-	当社関係会社に製品を納入 役員の兼任等..... 1名
RYOSAN ENGINEERING (THAILAND) CO., LTD.	タイ	千タイバーツ 50,350	生産事業	100.0 (1.1)	-	当社関係会社に製品を納入 借入に対する経営指導念書の差 入れ 役員の兼任等..... 1名

- (注) 1 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しております。  
2 上記子会社は、特定子会社には該当いたしません。  
3 上記各社は、有価証券届出書又は有価証券報告書は提出しておりません。  
4 議決権の所有割合の( )内は、間接所有割合で内数であります。  
5 HONG KONG RYOSAN LIMITED については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	売上高	26,601百万円
	経常利益	520百万円
	当期純利益	444百万円
	純資産額	5,087百万円
	総資産額	8,298百万円



## 5【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

(平成25年3月31日現在)

セグメントの名称	従業員数(名)
半導体事業	563〔17〕
電子部品事業	191〔5〕
電子機器事業	53〔2〕
生産事業	242〔41〕
全社(共通)	64〔1〕
合計	1,113〔66〕

(注) 従業員数は就業人員数(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であり、臨時従業員数は〔 〕内に年間の平均人員を外数で記載しております。

### (2) 提出会社の状況

(平成25年3月31日現在)

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
674〔53〕	42.2	16.4	6,213,801

セグメントの名称	従業員数(名)
半導体事業	347〔16〕
電子部品事業	114〔5〕
電子機器事業	51〔2〕
生産事業	98〔29〕
全社(共通)	64〔1〕
合計	674〔53〕

(注) 1 従業員数は就業人員数(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。)であり、臨時従業員数は〔 〕内に年間の平均人員を外数で記載しております。

2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

### (3) 労働組合の状況

労働組合はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1)業績

##### 全体の概況

当連結会計年度における世界経済は、欧州債務危機の長期化や中国を始めとする新興国経済の成長鈍化等により、低調に推移いたしました。また、我々が従事しておりますエレクトロニクス業界は、スマートフォン等の一部製品は好調に推移したものの、特に下期には全般的に需要低迷が強まり、非常に厳しい状況で推移いたしました。

このような情勢下で、当社グループは、2012年度「経営の取り組み」として「外部環境の変化にも生き残れる経営構造改革への取り組み」を基本姿勢とし、「経営体制の改革」「収益・財務体質の再構築」「グローバル化の推進」に取り組んでまいりました。

その結果、当連結会計年度の売上高は2,065億34百万円（前期比5.2%減）となりました。利益面につきましては、販管費の削減等により営業利益は36億73百万円（前期比4.6%増）となったものの、円安に伴う営業外費用増加等に伴い経常利益は41億11百万円（前期比8.1%減）となりました。当期純利益は、連結子会社セントラクト社の解散に伴う法人税等調整額の影響により28億14百万円（前期比48.2%増）となりました。

##### セグメント別の業績概況

#### イ 半導体事業

半導体事業では、メモリ、システムLSI、個別半導体の販売並びにシステムLSIの開発を行っております。当連結会計年度は、FA機器用システムLSI等の売上が減少し、売上高は1,311億72百万円（前期比0.9%減）となったものの、営業利益は31億20百万円（前期比29.9%増）となりました。

#### ロ 電子部品事業

電子部品事業では、表示デバイス、電源、機構部品を販売しております。当連結会計年度は、情報端末用表示デバイス等の売上が減少し、売上高は510億8百万円（前期比7.9%減）、営業利益は17億23百万円（前期比4.5%減）となりました。

#### ハ 電子機器事業

電子機器事業では、システム機器、設備機器を販売しております。当連結会計年度は、車載電装用システム機器等の売上が減少し、売上高は195億19百万円（前期比20.8%減）となったものの、営業利益は9億95百万円（前期比13.3%増）となりました。

#### ニ 生産事業

生産事業では、ヒートシンク（半導体素子用放熱器）を生産し、販売しております。当連結会計年度は、FA機器用ヒートシンク等の売上が減少し、売上高は48億33百万円（前期比11.3%減）、営業利益は2億10百万円（前期比4.7%減）となりました。

なお、上記の記載金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ163億50百万円増加し、504億63百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益が41億46百万円あったことに加え、売上債権及びたな卸資産がそれぞれ149億41百万円、63億19百万円減少したため、仕入債務が92億44百万円減少したものの、全体で176億89百万円の資金の増加となりました。なお、前連結会計年度の営業活動によるキャッシュ・フローは83億56百万円の資金の減少でした。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の払戻等により、全体で24億85百万円の資金の増加となりました。なお、前連結会計年度の投資活動によるキャッシュ・フローは9億36百万円の資金の減少でした。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払い及び自己株式の取得がそれぞれ16億73百万円、19億83百万円あったことに加え、外貨建て短期借入金が6億95百万円減少したことにより、全体で44億83百万円の資金の減少となりました。なお、前連結会計年度の財務活動によるキャッシュ・フローは4億19百万円の資金の増加でした。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(百万円)	前期比(%)
生産事業	3,966	10.0

- (注) 1 金額は、売価換算値によっております。  
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (2) 受注状況

当連結会計年度における受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高		受注残高	
	金額(百万円)	前期比(%)	金額(百万円)	前期比(%)
半導体事業	127,663	4.0	20,375	12.6
電子部品事業	50,237	6.8	8,171	6.4
電子機器事業	19,032	12.6	2,737	14.6
生産事業	4,706	11.4	585	16.9
合計	201,640	5.8	31,870	11.4

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (3) 仕入実績

当連結会計年度における仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	仕入高(百万円)	前期比(%)
半導体事業	113,951	6.7
電子部品事業	46,181	8.9
電子機器事業	17,771	22.5
生産事業	303	15.9
合計	178,207	9.1

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(4) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前期比(%)
半導体事業	131,172	0.9
電子部品事業	51,008	7.9
電子機器事業	19,519	20.8
生産事業	4,833	11.3
合計	206,534	5.2

(注) 1 主な相手先別の販売実績及び総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	
	金額(百万円)	割合(%)	金額(百万円)	割合(%)
三菱電機株式会社	31,303	14.37	21,275	10.30

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

当社グループが従事しておりますエレクトロニクス業界は、世界経済や産業構造の変化によってグローバル競争が激化し、今後も厳しい経営環境が続くものと思われ、特に日本のエレクトロニクス企業は海外企業との相対的な競争力を落とし、生き残りを賭けた資本・業務提携や、不採算事業からの撤退等の業界再編の動きが活発化しております。

このように競争が激しく、変化のスピードが速い環境の中で、当社グループは取引先各社の事業構造の変化を適切に受け止めて、機敏に対応していく考えであります。また、「企業体質の更なる改善」に向けて、「収益体質・財務体質の改善」に取り組んでまいります。

また一方で、当社グループは売上高の成長性に課題があると認識しております。そのため、成長戦略として「海外半導体デバイス事業等の更なる強化」に取り組んでいく考えであります。具体的には「新規リソース開発プロジェクト」を発足させ、当社グループの持続的成長を果たすための新規リソースの発掘、海外半導体デバイスビジネス拡大に再チャレンジしてまいります。

いずれにいたしましても、当社グループは、これらの課題を乗り越えることで自らの存在価値を高め、その価値に見合った対価を得て業績向上を果たし、株主を始めとするステークホルダーの皆様方のご期待にお応えする所存であります。

#### 4【事業等のリスク】

当社グループの経営成績、株価及び財務状況等に影響を及ぼす可能性のあるリスクには以下のようなものがあります。

なお、文中における将来に関する事項は、有価証券報告書提出日（平成25年6月24日）現在において当社グループが判断したものであります。

##### (1) 経済状況の急激な変動

当社グループの営業収入は、顧客であるセットメーカーの需要の影響を受け、そのセットメーカーの需要は製品を販売している国又は地域の経済状況の影響を受けます。従いまして、日本、アジア等当社グループの主要市場における景気後退、及びそれに伴う需要の減少は、当社グループの業績及び財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

##### (2) 仕入先との契約

当社グループは、国内外の複数の仕入先と代理店契約を締結しております。これまで仕入先各社とは良好な取引関係を維持しておりますが、仕入先の事業再編（M & A等）や販売チャネル政策の見直しにより、契約が継続できない場合は、当社グループの業績及び財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

##### (3) 為替レートの変動

当社グループの事業には、日本、アジア等における商品の販売と製品の生産が含まれており、各地域における売上、費用、資産を含む現地通貨建の項目は、連結財務諸表のために円換算されております。換算時の為替レートによりこれらの項目は、元の現地通貨における価値が変わらなかったとしても、円換算後の価値が影響を受ける可能性があります。一般的に他の通貨に対する円高は当社グループの連結業績に悪影響を及ぼし、円安は当社グループの連結業績に好影響をもたらします。従いまして、為替レートの変動は当社グループの連結業績及び財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

##### (4) 海外活動に潜在するリスク

当社グループの事業は、日本国内だけではなく、アジアを中心として海外の各国で行われており、海外の各国における次のようなリスクがあります。そのためこれらの事象が発生した場合は当社グループの業績及び財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

予期しえない法律・規制、不利な影響を及ぼす租税制度の変更

社会的共通資本（インフラ）が未整備なことによる当社グループの活動への悪影響

不利な政治的要因の発生

テロ、戦争等による社会的混乱

##### (5) 資本市場における相場の大幅な変動

当社グループは、金融機関や販売又は仕入に係る取引会社の株式を保有しているため、株式市場の価格変動リスクを負っております。株式の価格変動リスクについては特別のヘッジ手段を用いておりません。従いまして、資本市場における相場の大幅な変動は、当社グループの業績及び財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

なお、有価証券に係る時価に関する情報は、「第5 経理の状況」の有価証券関係の注記に記載しております。

##### (6) 退職給付債務

当社の従業員退職給付費用及び債務は、割引率等数値計算上で設定される前提条件や年金資産の期待収益率に基づいて算出されています。実際の結果が前提条件と異なる場合、または前提条件が変更された場合、その影響は累積され、将来にわたって定期的に認識されるため、一般的には将来期間において認識される費用及び計上される債務に影響を及ぼします。従って、一層の割引率の低下や運用利回りの悪化は当社の業績と財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

## (7) 自然災害等に関するリスク

地震、台風等の自然災害や火災等の事故災害に起因する設備の破損、電力・水道の供給困難等による販売、生産の停止は、当社グループの業績及び財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。また取引先が同様に被害を受け、商品の仕入、販売ができなくなった場合は、当社グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

## 5 【経営上の重要な契約等】

販売等の提携（提出会社）

平成25年3月31日現在における販売等の提携は、次のとおりであります。

提携先	取扱商品	契約の種類
日本電気株式会社	光デバイス、サーバー等	販売特約店契約
ルネサスエレクトロニクス株式会社	メモリ、システムLSI、個別半導体等	特約店契約
NXPセミコンダクターズジャパン株式会社	システムLSI、ディスクリート等	販売店契約
アルプス電気株式会社	スイッチ、ボリューム、磁気ヘッド、リモコン等	代理店取引基本契約
株式会社オルタステクノロジー	液晶ディスプレイ	取引基本契約
日本航空電子工業株式会社	コネクタ、スイッチ等	販売店契約
コーセル株式会社	スイッチング電源、ノイズフィルタ等	特約店基本契約
キャノンアネルバ株式会社	真空装置、スパッタリング装置、ドライエッチング装置等	販売特約店契約

## 6 【研究開発活動】

当社グループは、技術商社として、長年蓄積した技術ノウハウをベースに、技術イノベーションへの追従を図るため研究開発活動を推進しております。

当連結会計年度の主な研究開発としては、半導体事業では、成長分野・市場を重点とした各種システムの技術構築とその技術力の深耕を主眼に取り組みまいりました。特に先端分野の技術構築としてスマートグリッドにおけるスマートメータや太陽光発電による電力制御、LED照明などのソリューション構築、さらに次世代携帯電話の世界標準規格であるLTE（Long Term Evolution）に対するシステム技術の確立に取り組みまいりました。また、タッチパネル制御技術、暗号化技術、スイッチング電源の制御技術等の要素技術の確立や、車載分野での次世代高速車輻内ネットワーク規格であるEthernet AVBに基づいたプラットフォームの開発、車載器とスマートフォンを無線で繋ぐミラーキャストなどの技術構築にも取り組みまいりました。

また、生産事業では、環境ニーズを背景にした太陽光発電、燃料電池などの新エネルギー分野向けや産業インフラ向けのヒートシンクの開発と、それらの事業化のための工法及び自動化設備の開発に取り組みまいりました。

なお、当連結会計年度中に支出した研究開発費は、半導体事業で6億12百万円、生産事業で10百万円であり、総額は6億23百万円であります。

また、上記の記載金額には、消費税等は含まれておりません。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当社グループに関する財政状態及び経営成績の分析・検討内容は原則として連結財務諸表に基づいております。  
なお、文中の将来に関する事項は、有価証券報告書提出日（平成25年6月24日）現在において当社グループが判断したものであります。

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づいて作成されております。その作成には経営者による会計方針の選択・適用、資産・負債及び収益・費用の報告金額及び開示に影響を与える見積りを必要とします。経営者は、これらの見積りについて、過去の実績等を勘案し、合理的に判断しておりますが、実際の結果は見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

当社グループの連結財務諸表で採用する重要な会計方針は、第5「経理の状況」の連結財務諸表の「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」にて記載しておりますが、特に次の重要な会計方針が連結財務諸表作成における重要な見積りの判断に大きな影響を及ぼすと考えております。

#### 収益の認識基準

当社グループの売上高は、通常、出荷基準に基づき顧客に商品が出荷された時点又はサービスが提供された時点で売上を計上しております。また、一部顧客が当社グループからの商品を検収した時点で、売上を計上しております。

#### 貸倒引当金の計上基準

当社グループは、売上債権等の貸倒損失に備えて回収不能となる見積額を貸倒引当金として計上しております。将来、顧客の財務状況等が悪化し支払能力が低下した場合には、引当金の追加計上又は貸倒損失が発生する可能性があります。

#### 棚卸資産の評価基準

当社グループが販売する棚卸資産は市場の需給の影響を受け、市場価格が低下する場合がありますため、評価基準として、原価法（収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）を採用しております。

#### 有価証券の減損処理

当社グループは、金融機関や販売又は仕入に係る取引会社の株式を保有しております。これらの株式は株式市場の価格変動リスクを負っているため、合理的な基準に基づき有価証券の減損処理を行っております。減損処理に係る合理的な基準は、第5「経理の状況」の有価証券関係の注記に記載しております。将来の株式市場が悪化した場合には多額の有価証券評価損を計上する可能性があります。

#### 繰延税金資産の回収可能性の評価

当社グループは、繰延税金資産の回収可能性を評価するに際して将来の課税所得を合理的に見積っております。繰延税金資産の回収可能性は将来の課税所得の見積りに依存するので、その見積り額が減少した場合には繰延税金資産が減額され税金費用が計上される可能性があります。

### (2) 経営成績の分析

#### 売上高の分析

当連結会計年度は、欧州債務危機の長期化や中国を始めとする新興国経済の成長鈍化等により、売上高は2,065億34百万円と前連結会計年度に比べ5.2%、113億52百万円の減少となりました。

#### 販売費及び一般管理費の分析

当連結会計年度は、前連結会計年度に比べ2.0%、2億66百万円減少し、129億92百万円となりました。これは売上高減少に伴い事業コストの減少によるものであります。

#### 営業外損益の分析

当連結会計年度は、為替差損及び受取手数料等の減少により、前連結会計年度と比べ5億27百万円の減少となりました。

#### 特別損益の分析

当連結会計年度は、投資有価証券評価損の減少等により、前連結会計年度と比べ1億90百万円の増加となりました。



(3) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

キャッシュ・フローの状況

現金及び現金同等物の当連結会計年度期末残高は504億63百万円と、前連結会計年度に比べ163億50百万円増加いたしました。

これは税金等調整前当期純利益が41億46百万円であったことに加え、売上債権及びたな卸資産がそれぞれ149億41百万円、63億19百万円減少したため営業活動によるキャッシュ・フローが176億89百万円の資金の増加となり、投資活動によるキャッシュ・フローも定期預金の払戻しによる収入等により24億85百万円増加しましたが、自己株式の取得19億83百万円及び配当金の支払16億73百万円等により財務活動によるキャッシュ・フローが44億83百万円の資金が減少したことによります。

資金需要について

当社グループの資金需要の主なものは、商品の仕入費用、販売費及び一般管理費等の営業費用等であります。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資（有形固定資産のほか無形固定資産含む）については、主として提出会社で機械装置の取得、開発器具及び事務用備品の取得により、総額6億61百万円を実施いたしました。

なお、セグメント別の設備投資内容は、次のとおりであります。

半導体事業	374百万円
電子部品事業	122
電子機器事業	80
生産事業	80
共通	3
合計	661

上記の設備投資の所要資金は、自己資金をもって充当しております。

#### 2【主要な設備の状況】

##### (1) 提出会社

(平成25年3月31日現在)

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)				従業員数 (名)
			建物及び 構築物	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他	
本社ビル (東京都千代田区)	全社的 管理業務	事務所	706	933 (831)	14	45	1,699 〔1〕
東神田ビル (東京都千代田区)	半導体事業 電子部品事業 電子機器事業 生産事業	事務所	95	695 (366)	-	1	791 58
本社別館 (東京都千代田区)	半導体事業	事務所	327	493 (199)	-	6	827 〔1〕
川崎総合 業務センター (川崎市麻生区)	半導体事業 電子部品事業 電子機器事業 生産事業	事務所 倉庫	1,567	2,761 (11,801)	275	12	4,617 46 〔1〕
大阪物流センター (大阪府摂津市)	半導体事業 電子部品事業 電子機器事業 生産事業	倉庫	135	337 (2,299)	-	0	473 1
行田工場 (埼玉県行田市)	生産事業	生産設備	62	13 (11,512)	4	51	132 36 〔13〕
上野原工場 (山梨県上野原市)	生産事業	生産設備	120	561 (9,580)	12	48	743 35 〔14〕

(2) 在外子会社

(平成25年3月31日現在)

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
				建物及び 構築物	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他	合計	
HONG KONG RYOSAN LIMITED	本社 (香港)	半導体事業 電子部品事業 生産事業	事務所	75	-	-	18	94	86
ZHONG LING INTERNATIONAL TRADING (SHANGHAI) CO.,LTD.	本社 (中華人民 共和国)	半導体事業 電子部品事業	事務所	-	-	-	7	7	33
SINGAPORE RYOSAN PRIVATE LIMITED	本社 (シンガ ポール)	半導体事業 電子部品事業 電子機器事業 生産事業	事務所	-	-	-	14	14	19
RYOTAI CORPORATION	本社 (台湾)	半導体事業 電子部品事業 電子機器事業	事務所	29	18 (60)	-	1	49	31
RYOSAN IPC (MALAYSIA) SDN. BHD.	本社 (マレー シア)	半導体事業 電子部品事業 電子機器事業 生産事業	事務所	-	-	-	5	5	13
RYOSAN (THAILAND) CO.,LTD.	本社 (タイ)	半導体事業 電子部品事業 電子機器事業	事務所	9	-	0	5	15	28
KOREA RYOSAN CORPORATION	本社 (大韓民 国)	半導体事業 電子部品事業 電子機器事業	事務所	0	-	-	1	1	31
RYOSAN ENGINEERING (M) SDN.BHD.	本社 (マレー シア)	生産事業	生産設 備	-	-	-	2	2	24
RYOSAN ENGINEERING (THAILAND) CO., LTD.	本社 (タイ)	生産事業	生産設 備	30	36 (7,316)	-	146	213	118 〔12〕

(注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、機械装置及び運搬具並びに工具、器具及び備品であります。なお、記載金額には消費税等は含まれておりません。

2 上記の他に事務所及び生産設備として建物を賃借しております。賃借料は、58百万円であります。

3 現在休止中の主要な設備はありません。

4 従業員数欄の〔 〕内は臨時従業員数で外数で記載しております。

### 3 【設備の新設、除却等の計画】

#### (1) 重要な設備の新設等

特記すべき事項はありません。

#### (2) 重要な設備の除却等

特記すべき事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	155,673,598
計	155,673,598

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成25年3月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成25年6月24日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	34,500,000	34,500,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株でありま す。
計	34,500,000	34,500,000	-	-

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成21年3月30日 (注)	2,000,000	34,500,000	-	17,690	-	19,114

(注) 自己株式の消却によるものであります。

#### (6)【所有者別状況】

平成25年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							計	単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他		
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	41	30	111	155	5	4,155	4,497	-
所有株式数 (単元)	-	122,943	3,929	19,080	122,471	27	76,249	344,699	30,100
所有株式数の割 合(%)	-	35.67	1.14	5.54	35.53	0.01	22.12	100.00	-

(注) 自己株式は「個人その他」に20,357単元含まれております。

(7)【大株主の状況】

平成25年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) SUB A/C AMERICAN CLIENTS (常任代理人 香港上海銀行東京支 店)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5NT UK (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	4,688	13.59
NORTHERN TRUST CO. AVFC RE U.S. TAX EXEMPTED PENSION FUNDS (常任代理人 香港上海銀行東京支 店)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5NT UK (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	1,990	5.77
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	1,632	4.73
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	1,232	3.57
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(住友信託銀行再信託分・ ルネサスエレクトロニクス株式会社 退職給付信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	1,104	3.20
日本マスタートラスト信託銀行株式 会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	1,022	2.96
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口9)	東京都中央区晴海1丁目8-11	981	2.84
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	949	2.75
住友生命保険相互会社	東京都中央区築地7丁目18-24	861	2.50
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO (常任代理人 シティバンク銀行株 式会社)	388 GREENWICH STREET, NY, NY 10013, USA (東京都品川区東品川2丁目3番14号)	753	2.19
計	-	15,216	44.11

(注) 1 上記のほか当社所有の自己株式2,035千株(株式所有割合5.90%)があります。

2 シルチェスター・パートナーズ・リミテッド(旧商号:シルチェスター・インターナショナル・インベ  
スターズ・リミテッド)から平成22年11月8日付で大量保有報告書の変更報告書の提出があり、事業譲渡によ  
る投資一任契約により、シルチェスター・インターナショナル・インベスターズ・エルエルピーが平成22年  
11月1日現在、6,533千株(株式所有割合18.94%)の当社株式を保有している旨の報告を受けております  
が、当社として実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

- 3 株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ及びその関係会社から平成23年4月4日付で大量保有報告書の変更報告書の提出があり、平成23年3月28日現在、下記のとおり当社株式を保有している旨の報告を受けておりますが、当社として株式会社三菱東京UFJ銀行以外は実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

氏名又は名称	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社三菱東京UFJ銀行	949	2.75
三菱UFJ信託銀行株式会社	573	1.66
三菱UFJ投信株式会社	374	1.08
計	1,897	5.50

( 8 ) 【議決権の状況】  
【発行済株式】

平成25年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,035,700	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 32,434,200	324,342	-
単元未満株式	普通株式 30,100	-	一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	34,500,000	-	-
総株主の議決権	-	324,342	-

【自己株式等】

平成25年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社リョーサン	東京都千代田区東神田2丁目3番5号	2,035,700	-	2,035,700	5.90
計	-	2,035,700	-	2,035,700	5.90

( 9 ) 【ストックオプション制度の内容】  
該当事項はありません。

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号及び会社法第155条7号による普通株式の取得

### (1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2)【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
取締役会(平成25年1月24日)での決議状況 (取得期間 平成25年2月6日~平成25年5月31日)	1,000,000	2,500,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	1,000,000	1,982,623
残存決議株式の総数及び価額の総額	-	517,376
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	-	20.7
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	-	20.7

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
取締役会(平成25年5月24日)での決議状況 (取得期間 平成25年5月27日~平成25年6月14日)	1,000,000	2,129,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	-	-
残存決議株式の総数及び価額の総額	-	-
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	-	-
当期間における取得自己株式	1,000,000	1,799,543
提出日現在の未行使割合(%)	-	15.5



(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	418	644
当期間における取得自己株式	64	111

(注) 当期間における取得自己株式には、平成25年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他( )	49	112	-	-
保有自己株式数	2,035,794	-	3,035,858	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成25年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り等による株式数は含まれておりません。

### 3【配当政策】

当社は、株主の皆様への利益還元を経営上の重要政策の一つと認識すると共に、1株当たりの連結純利益の向上に努力しております。株主の皆様への利益還元につきましては、安定的に高配当を維持することを基本方針とし、連結配当性向50%以上を目標としていく考えであります。また、自己株式の買入につきましても、連結業績の動向等を勘案し、総合的に判断していく予定です。

当社は、会社法第459条の規定に基づき、取締役会の決議によって剰余金の配当を行うことができる旨を定めております。また当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を継続することを基本方針としております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成24年10月31日 取締役会決議	1,003	30
平成25年5月9日 取締役会決議	973	30

### 4【株価の推移】

#### (1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次 決算年月	第53期 平成21年3月	第54期 平成22年3月	第55期 平成23年3月	第56期 平成24年3月	第57期 平成25年3月
最高(円)	2,520	2,565	2,618	1,996	2,041
最低(円)	1,675	1,999	1,659	1,506	1,318

(注) 株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

#### (2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成24年 10月	11月	12月	平成25年 1月	2月	3月
最高(円)	1,420	1,417	1,529	1,787	2,041	1,876
最低(円)	1,318	1,319	1,340	1,545	1,760	1,777

(注) 株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長		三 松 直 人	昭和31年10月18日生	昭和56年4月 当社入社 平成18年6月 取締役管理本部長 平成19年5月 代表取締役社長(現任)	(注)3	14
常務取締役	営業管理本 部長兼国内 第三営業本 部長兼半導 体第一事業 本部長	栗 原 宏 幸	昭和36年2月27日生	昭和60年4月 当社入社 平成19年3月 中菱国際貿易(上海)有限公司董事総 経理 平成23年7月 当社半導体第一事業本部副本部長 平成24年6月 取締役半導体第一事業本部長兼営業管 理本部長 平成24年11月 取締役国内第三営業本部長兼半導体第 一事業本部長兼営業管理本部長 平成25年6月 常務取締役営業管理本部長兼国内第三 営業本部長兼半導体第一事業本部長 (現任)	(注)3	1
取締役	国内第二営 業本部長	澁 谷 裕	昭和35年3月19日生	昭和59年10月 当社入社 平成14年4月 半導体新商品専売本部長 平成18年6月 取締役半導体第二事業本部長 平成21年6月 取締役営業管理本部長兼海外営業 本部長兼新商品担当 平成21年10月 常務取締役営業管理本部長兼海外営業 本部長兼海外半導体商品担当 平成22年6月 常務取締役営業管理本部長兼海外営業 本部長 平成22年9月 常務取締役半導体事業本部長 平成23年4月 常務取締役半導体第一事業本部長 平成24年6月 取締役国内第二営業本部長(現任)	(注)3	7
取締役	技術本部長	坂 田 敏 文	昭和28年12月18日生	昭和52年4月 日本電気株式会社入社 平成19年6月 当社取締役半導体第一事業部長兼半導 体技術本部長 平成20年4月 取締役半導体技術本部長 平成21年6月 取締役技術本部長(現任)	(注)3	6
取締役	電子部品事 業本部長	小 山 強	昭和30年1月1日生	昭和48年4月 当社入社 平成19年6月 取締役国内第二営業本部長 平成20年4月 取締役電子部品事業本部長 平成21年6月 取締役国内第二営業本部長 平成24年6月 取締役電子部品事業本部長(現任)	(注)3	6
取締役	生産事業本 部長	高 林 聡	昭和29年3月4日生	昭和51年4月 日本電気株式会社入社 平成20年5月 当社生産事業本部長付 平成20年6月 取締役生産事業本部長(現任)	(注)3	6
取締役	海外営業本 部長	本 間 宏 二	昭和32年3月30日生	昭和58年11月 当社入社 平成8年7月 RYOSAN (MALAYSIA) SDN. BHD. 取締役 平成19年4月 当社海外営業本部副本部長 平成21年3月 セントラクト株式会社代表取締役社長 平成22年6月 当社取締役海外半導体商品担当 平成22年9月 取締役海外半導体商品担当兼海外営業 本部長 平成23年4月 取締役半導体第二事業本部長兼海外営 業本部長 平成23年6月 取締役半導体第二事業本部長 平成24年6月 取締役国内第一営業本部長 平成24年11月 取締役海外営業本部長(現任)	(注)3	3
取締役	国内第一営 業本部長兼 半導体第二 事業本部長	佐 藤 和 典	昭和37年2月5日生	昭和59年4月 当社入社 平成21年6月 株式会社サクシス代表取締役社長 平成23年10月 当社半導体第二事業本部長 平成24年6月 取締役半導体第二事業本部長兼企画本 部副本部長 平成24年11月 取締役国内第一営業本部長兼半導体第 二事業本部長(現任)	(注)3	2

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	財経本部長	佐野 秀一	昭和33年11月15日生	昭和57年4月 株式会社住友銀行（現株式会社三井住友銀行）入行 平成23年4月 当社財経本部本部長代理 取締役財経本部長兼管理担当（現任） 平成24年6月	(注)3	1
取締役	電子機器事業本部長	吉泉 康雄	昭和34年9月16日生	昭和57年4月 日本電気株式会社入社 平成24年4月 当社電子機器事業本部副本部長 平成24年6月 取締役電子機器事業本部長（現任）	(注)3	1
取締役		小松 正明	昭和22年1月4日生	昭和44年4月 株式会社資生堂入社 平成15年6月 同社取締役執行役員国際事業総本部国際事業企画部長 平成18年4月 同社取締役執行役員常務国際事業部長・プロフェッショナル事業部長 平成24年6月 当社取締役（現任）	(注)3	1
監査役 (常勤)		関 晴光	昭和24年1月25日生	昭和47年4月 株式会社住友銀行（現株式会社三井住友銀行）入行 平成16年6月 当社取締役財経本部長 平成18年6月 常務取締役財経本部長 平成21年6月 専務取締役財経本部長 平成24年6月 監査役（常勤）（現任）	(注)4	12
監査役 (常勤)		本田 健	昭和30年4月7日生	昭和55年4月 株式会社三菱銀行（現株式会社三菱東京UFJ銀行）入行 平成21年6月 当社取締役管理本部長 平成24年6月 監査役（常勤）（現任）	(注)4	5
監査役		中野 廣太郎	昭和21年9月21日生	昭和45年4月 株式会社三菱銀行（現株式会社三菱東京UFJ銀行）入行 平成11年9月 ダイヤモンドスタッフサービス株式会社（現三菱UFJスタッフサービス株式会社）常務取締役 平成12年6月 同社代表取締役社長 平成15年4月 東京ダイヤモンド・エージェンシー株式会社（現エム・ユー・ビジネスサービス株式会社）代表取締役社長 平成19年6月 株式会社DCキャッシュワン（現アコム株式会社）常勤監査役 平成21年3月 昭和四日市石油株式会社監査役 平成21年6月 当社監査役（現任）	(注)5	2
監査役		藤野 利行	昭和23年3月3日生	昭和46年4月 郵政省入省 平成12年7月 株式会社KDD（現株式会社KDDI）執行役員 平成20年7月 弁護士登録 同 藤野法律事務所開設（現在に至る） 平成24年6月 当社監査役（現任）	(注)4	1
計						74

- (注) 1 取締役 小松 正明氏は、社外取締役であります。  
2 監査役 藤野 利行及び中野 廣太郎の両氏は、社外監査役であります。  
3 平成25年6月21日開催の定時株主総会の終結の時から平成26年3月期に係る定時株主総会終結の時まで  
4 平成24年6月22日開催の定時株主総会の終結の時から平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時まで  
5 平成25年6月21日開催の定時株主総会の終結の時から平成29年3月期に係る定時株主総会終結の時まで

## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

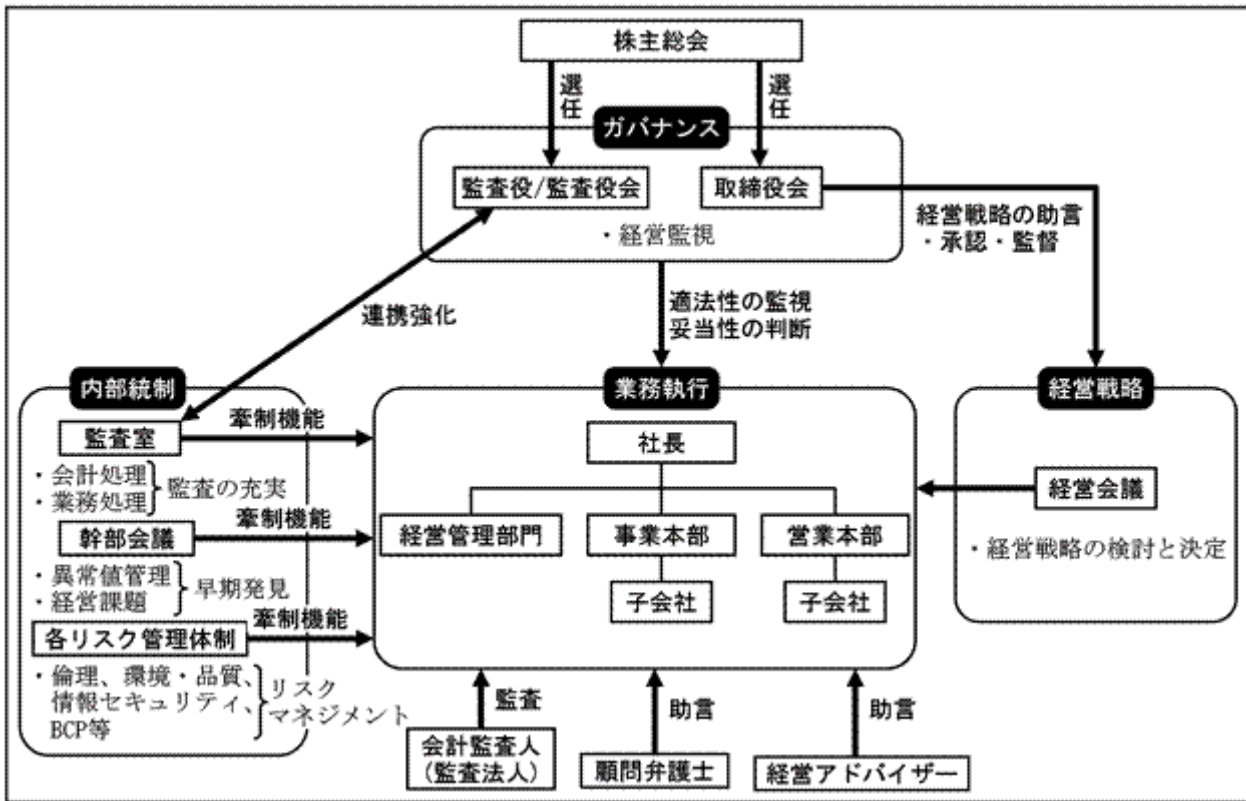
コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は「経営理念」として、下記の3つの経営原則を定めており、これらの経営原則に基づき、コーポレート・ガバナンスの強化に努めております。

- 一つ目：「使命型企業としての成長」（「使命」の実現度の向上を成長とする原則）
- 二つ目：「企業価値の創造」（株主価値の向上を成長とする原則）
- 三つ目：「価値交換性の向上」（各ステークホルダーとの価値交換性の向上を成長とする原則）

企業統治の体制

- ・当社は、代表取締役社長のガバナンスと経営執行（経営戦略・業務執行）における経営責任（役割）を明確に定めております。また、取締役は当社独自の経営スタイルを確立・維持するために「ガバナンス機能」「経営戦略機能」「業務執行機能」の3つの機能を兼務しております。そして、取締役会をガバナンス並びに経営戦略の助言・承認・監督を行う機関、経営会議は経営戦略の検討と決定を行う機関と定め、これら経営執行プロセスを通して、自らの行動を立証しております。なお、取締役が上記3つの機能を兼務することから、コーポレート・ガバナンスの体制としては、監査役会設置会社制度を採用しております。
- ・当社は、内部統制システムの整備に関する基本方針を定め、業務の適正を確保するための体制を構築すると共に、実践活動を行っております。また、「内部監査」「幹部会議」「各リスク管理体制」によって、業務執行に対する牽制機能を発揮しております。
- ・当社のコーポレート・ガバナンス体制の概要は、次の図のとおりです。



内部監査及び監査役監査の状況

(内部監査)

内部監査につきましては、社長直轄の監査室(3名)が担当しており、期初に策定した監査計画に基づき、業務全般にわたる内部監査を実施しております。監査結果は直接社長・取締役及び監査役に文書で報告されております。被監査部門に対しては監査結果を踏まえ改善指示を行っております。なお、監査室長は毎月開催される「幹部会議」に出席することで、異常値の早期発見にも取り組んでおります。

(監査役監査)

監査役監査につきましては、監査役(4名、うち社外監査役2名)が実施しております。各監査役は、取締役会、経営会議をはじめとする重要な会議に出席し、意思決定の過程及び業務の執行状況を把握するとともに、社内各部門や子会社における業務状況などの調査を行っております。当社監査役は内部監査部門や会計監査人と連携を取りながら、効率的かつ効果的な監査の実施に努めております。

会計監査につきましては、監査法人から会計監査結果の報告を受け、その妥当性についての監査を実施しております。

社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は1名、社外監査役は2名であります。

当社はコーポレート・ガバナンスにおいて、外部からの客観的、かつ中立の経営監視機能が重要であると考えており、豊富な経験と幅広い見識を有するとともに、一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立性のある社外取締役及び社外監査役を選任しております。なお、独立性に関する判断基準は、東京証券取引所の有価証券上場規程に定める判断基準を参考にしております。

社外取締役小松正明氏は、グローバル企業における豊富な経験や幅広い見識から、当社の経営の透明性と客観性の向上を図るため選任しております。社外監査役中野廣太郎氏は、銀行業務の経験と幅広い見識を有し、また企業経営者として経営に関与した経験もあり、それらの見地から当社の監査役会の質的向上を図るため選任しております。社外監査役藤野利行氏は、豊富なキャリア及び弁護士としての専門的知識から、監査役会の質的向上を図るため選任しております。

なお、社外監査役中野廣太郎氏は主要取引銀行である株式会社東京三菱銀行(現株式会社三菱東京UFJ銀行)に勤務しておりましたが、退職からは相当な年数が経過し、退職後は当社の主要取引先等の利害関係のある会社に勤務していた実績はありません。また、当社は複数の金融機関と取引しており、同行からの借入金に依存しておらず、当社への影響は僅少であります。なおかつ、当社は同行より恒常的に人材を招聘しているわけではありません。上記以外に、社外取締役1名及び社外監査役2名との間には、特別な人的関係、資本的関係または取引関係その他の利害関係はありません。

役員報酬の内容

イ 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)		対象となる役員 の員数(名)
		基本報酬	賞与	
取締役 (社外取締役を除く。)	182	182	-	15
監査役 (社外監査役を除く。)	38	38	-	4
社外役員	14	14	-	4

(注) 1 取締役の基本報酬には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。

2 上記には、平成24年6月22日開催の第56回定時株主総会終結の時をもって退任した取締役4名、監査役2名及び社外役員1名並びに平成25年2月28日付をもって退任した取締役1名を含んでおります。

ロ 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針については、株主総会において決議された報酬限度額の範囲内で、取締役報酬等は会社業績・個人成果を勘案して決定され、監査役報酬等は監査役会で決定されております。

## 株式の保有状況

イ 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額  
46銘柄 2,233百万円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的  
(前事業年度)  
特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
コーセル株式会社	247,732	285	営業上の取引関係維持のため
カシオ計算機株式会社	346,665	204	営業上の取引関係維持のため
株式会社エクセル	211,200	172	営業上の取引関係維持のため
ブラザー工業株式会社	132,900	149	営業上の取引関係維持のため
S M K 株式会社	491,160	140	営業上の取引関係維持のため
日本航空電子工業株式会社	193,304	138	営業上の取引関係維持のため
横河電機株式会社	126,800	106	営業上の取引関係維持のため
アイホン株式会社	63,360	99	営業上の取引関係維持のため
日本電気株式会社	501,570	86	営業上の取引関係維持のため
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	187,400	77	営業上の取引関係維持のため
太陽誘電株式会社	84,000	74	営業上の取引関係維持のため
ルネサスエレクトロニクス株式会社	100,000	57	営業上の取引関係維持のため
株式会社三井住友フィナンシャルグループ	19,274	52	営業上の取引関係維持のため
三井住友トラスト・ホールディングス株式会社	185,722	49	営業上の取引関係維持のため
株式会社イクス	198,000	37	営業上の取引関係維持のため
三重銀行株式会社	186,890	37	営業上の取引関係維持のため
日本ケミコン株式会社	75,880	31	営業上の取引関係維持のため
ケル株式会社	88,000	28	営業上の取引関係維持のため
東洋証券株式会社	118,537	27	営業上の取引関係維持のため
松尾電機株式会社	171,000	25	営業上の取引関係維持のため
スタンレー電機株式会社	189,000	24	営業上の取引関係維持のため
株式会社大和証券グループ本社	57,884	18	営業上の取引関係維持のため
日本電子株式会社	50,000	12	営業上の取引関係維持のため
株式会社チノー	50,059	11	営業上の取引関係維持のため
東亜ディーケーケー株式会社	33,000	10	営業上の取引関係維持のため
山洋電気株式会社	19,740	9	営業上の取引関係維持のため
アルプス電気株式会社	12,961	9	営業上の取引関係維持のため
菊水電子工業株式会社	12,000	6	営業上の取引関係維持のため
株式会社エヌエフ回路設計ブロック	12,100	6	営業上の取引関係維持のため
東芝テック株式会社	17,456	5	営業上の取引関係維持のため

(当事業年度)  
特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
コーセル株式会社	247,732	263	営業上の取引関係維持のため
カシオ計算機株式会社	346,665	251	営業上の取引関係維持のため
株式会社エクセル	211,200	196	営業上の取引関係維持のため
日本航空電子工業株式会社	193,304	136	営業上の取引関係維持のため
ブラザー工業株式会社	132,900	130	営業上の取引関係維持のため
S M K 株式会社	491,160	127	営業上の取引関係維持のため
日本電気株式会社	501,570	122	営業上の取引関係維持のため
横河電機株式会社	126,800	119	営業上の取引関係維持のため
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	187,400	104	営業上の取引関係維持のため
太陽誘電株式会社	84,000	99	営業上の取引関係維持のため
アイホン株式会社	63,360	99	営業上の取引関係維持のため
三井住友トラスト・ホールディングス株式会社	185,722	82	営業上の取引関係維持のため
株式会社三井住友フィナンシャルグループ	19,274	72	営業上の取引関係維持のため
東洋証券株式会社	118,537	46	営業上の取引関係維持のため
三重銀行株式会社	186,890	41	営業上の取引関係維持のため
株式会社大和証券グループ本社	57,884	37	営業上の取引関係維持のため
株式会社イクス	198,000	37	営業上の取引関係維持のため
スタンレー電気株式会社	18,900	31	営業上の取引関係維持のため
ケル株式会社	88,000	28	営業上の取引関係維持のため
ルネサスエレクトロニクス株式会社	100,000	24	営業上の取引関係維持のため
日本電子株式会社	50,000	20	営業上の取引関係維持のため
松尾電機株式会社	171,000	18	営業上の取引関係維持のため
東亜ディーケーケー株式会社	33,000	18	営業上の取引関係維持のため
日本ケミコン株式会社	75,880	18	営業上の取引関係維持のため
山洋電気株式会社	19,740	13	営業上の取引関係維持のため
株式会社チノー	50,059	11	営業上の取引関係維持のため
東芝テック株式会社	17,456	9	営業上の取引関係維持のため
アルプス電気株式会社	12,961	8	営業上の取引関係維持のため
株式会社エヌエフ回路設計ブロック	12,100	7	営業上の取引関係維持のため
菊水電子工業株式会社	12,000	6	営業上の取引関係維持のため



#### 会計監査

当社は、会社法に基づく会計監査人及び金融商品取引法に基づく監査法人に有限責任監査法人トーマツを起用しておりますが、同監査法人及び当社監査に従事している同監査法人の業務執行社員と当社の間には特別の利害関係はありません。当社は同監査法人との間で、会社法監査及び金融商品取引法監査について、監査契約書を締結し、それに基づき報酬を支払っております。当期において業務を執行した公認会計士の氏名、監査業務に係る補助者の構成については下記のとおりであります。

##### 業務を執行した公認会計士の氏名

指定有限責任社員 業務執行社員： 三澤幸之助、岩下万樹

##### 会計監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 9名、会計士補等 3名、その他 2名

#### 会社のコーポレート・ガバナンスの充実に向けた取り組みの最近1年間における実施状況

当期においては、「取締役会」は13回開催しております。また、「経営会議」は3回開催しております。なお、「経営会議」には、業務を執行する取締役だけでなく監査役も出席することによりコーポレート・ガバナンスの強化を図っております。

また、「監査役会」は13回開催しております。

#### 取締役の定数

当社の取締役は20名以内とする旨定款に定めております。

#### 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

#### 剰余金の配当等の決定機関

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項について、法令に別段の定めのある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議によって定める旨定款に定めております。これは、剰余金の配当等を取締役会の権限とすることにより、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

#### 株主総会決議事項を取締役会で決議することができる事項

- イ 取締役の損害賠償責任を法令の限度において免除することができる旨  
(職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるようにするため)
- ロ 監査役の損害賠償責任を法令の限度において免除することができる旨  
(職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるようにするため)

#### 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

#### 責任限定契約の概要

当社と社外取締役及び社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が定める額としております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)
提出会社	46	1	46	0
連結子会社	-	-	-	-
計	46	1	46	0

【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度

当社の連結子会社であるHONG KONG RYOSAN LIMITED他海外子会社7社は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているデロイト トウシュ トーマツ (Deloitte Touche Tohmatsu) に対して、監査証明業務として28百万円の報酬を支払っております。

当連結会計年度

当社の連結子会社であるHONG KONG RYOSAN LIMITED他海外子会社7社は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているデロイト トウシュ トーマツ (Deloitte Touche Tohmatsu) に対して、監査証明業務として30百万円の報酬を支払っております。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度

監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容は、国際財務報告基準への対応に関する指導・助言業務に対するものであります。

当連結会計年度

監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容は、国際財務報告基準への対応に関する指導・助言業務に対するものであります。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、監査日程等を勘案したうえで決定しております。

## 第5【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）及び事業年度（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）の連結財務諸表及び財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更についての確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

また、公益財団法人財務会計基準機構が行うセミナーに参加しております。

## 1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】  
【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	34,114	50,464
受取手形及び売掛金	3 81,123	3 68,101
商品及び製品	24,308	18,793
仕掛品	147	141
原材料及び貯蔵品	177	152
未収入金	2,989	1,390
繰延税金資産	276	514
その他	1,109	243
貸倒引当金	93	106
流動資産合計	144,153	139,696
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	10,715	10,576
減価償却累計額	6,253	6,285
建物及び構築物（純額）	4,461	4,290
土地	8,121	8,121
リース資産	603	829
減価償却累計額	381	495
リース資産（純額）	221	333
その他	4,393	4,554
減価償却累計額	3,872	4,028
その他（純額）	520	526
有形固定資産合計	13,325	13,272
無形固定資産	930	1,029
投資その他の資産		
投資有価証券	1, 2 3,084	1, 2 3,286
長期預金	3,000	-
繰延税金資産	958	947
その他	1 2,719	1 3,132
貸倒引当金	957	1,045
投資損失引当金	136	98
投資その他の資産合計	8,669	6,222
固定資産合計	22,925	20,524
資産合計	167,079	160,220

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2, 3 33,549	2, 3 25,261
短期借入金	11,850	12,850
リース債務	112	138
未払金	1,761	841
未払費用	1,091	1,069
未払法人税等	338	689
その他	193	178
流動負債合計	48,896	41,028
固定負債		
リース債務	155	242
退職給付引当金	2,275	2,149
その他	60	76
固定負債合計	2,491	2,469
負債合計	51,388	43,498
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	17,690	17,690
資本剰余金	19,114	19,114
利益剰余金	83,449	84,590
自己株式	1,806	3,789
株主資本合計	118,447	117,606
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	331	484
繰延ヘッジ損益	2	0
為替換算調整勘定	3,090	1,368
その他の包括利益累計額合計	2,756	883
純資産合計	115,691	116,722
負債純資産合計	167,079	160,220

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】  
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
売上高	217,887	206,534
売上原価	1 201,117	1 189,868
売上総利益	16,769	16,666
販売費及び一般管理費		
荷造運搬費	717	662
貸倒引当金繰入額	11	129
役員報酬	437	412
給料及び手当	3,821	3,694
賞与	1,006	928
退職給付費用	432	342
福利厚生費	834	816
減価償却費	542	524
その他	4 5,453	4 5,481
販売費及び一般管理費合計	13,258	12,992
営業利益	3,511	3,673
営業外収益		
受取利息	93	69
受取配当金	274	109
受取手数料	549	477
雑収入	241	224
営業外収益合計	1,159	881
営業外費用		
支払利息	168	180
為替差損	8	241
雑損失	17	21
営業外費用合計	194	443
経常利益	4,476	4,111
特別利益		
固定資産売却益	-	2 34
投資有価証券売却益	-	6
投資損失引当金戻入額	-	37
特別利益合計	-	77
特別損失		
固定資産売却損	3 7	3 0
減損損失	-	5 3
投資有価証券評価損	138	35
投資損失引当金繰入額	9	-
ゴルフ会員権評価損	-	4
特別損失合計	155	42
税金等調整前当期純利益	4,321	4,146
法人税、住民税及び事業税	1,663	1,625
法人税等調整額	755	293
法人税等合計	2,419	1,331
少数株主損益調整前当期純利益	1,902	2,814
少数株主利益	2	-
当期純利益	1,899	2,814

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	1,902	2,814
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	35	153
繰延ヘッジ損益	9	2
為替換算調整勘定	133	1,721
その他の包括利益合計	189	1,872
包括利益	1,812	4,687
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,808	4,687
少数株主に係る包括利益	4	-

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
当期首残高	17,690	17,690
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	17,690	17,690
<b>資本剰余金</b>		
当期首残高	19,114	19,114
当期変動額		
自己株式の処分	-	0
利益剰余金から資本剰余金への振替	-	0
当期変動額合計	-	-
当期末残高	19,114	19,114
<b>利益剰余金</b>		
当期首残高	83,606	83,449
当期変動額		
剰余金の配当	2,056	1,673
当期純利益	1,899	2,814
利益剰余金から資本剰余金への振替	-	0
当期変動額合計	157	1,141
当期末残高	83,449	84,590
<b>自己株式</b>		
当期首残高	85	1,806
当期変動額		
自己株式の取得	1,720	1,983
自己株式の処分	-	0
当期変動額合計	1,720	1,983
当期末残高	1,806	3,789
<b>株主資本合計</b>		
当期首残高	120,325	118,447
当期変動額		
剰余金の配当	2,056	1,673
当期純利益	1,899	2,814
自己株式の取得	1,720	1,983
自己株式の処分	-	0
利益剰余金から資本剰余金への振替	-	-
当期変動額合計	1,878	841
当期末残高	118,447	117,606



	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
<b>その他の包括利益累計額</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
当期首残高	295	331
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	35	153
当期変動額合計	35	153
当期末残高	331	484
<b>繰延ヘッジ損益</b>		
当期首残高	6	2
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	9	2
当期変動額合計	9	2
当期末残高	2	0
<b>為替換算調整勘定</b>		
当期首残高	2,954	3,090
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	135	1,721
当期変動額合計	135	1,721
当期末残高	3,090	1,368
<b>その他の包括利益累計額合計</b>		
当期首残高	2,665	2,756
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	90	1,872
当期変動額合計	90	1,872
当期末残高	2,756	883
<b>少数株主持分</b>		
当期首残高	120	
当期変動額		
連結子会社株式の取得による持分の増減	103	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	17	-
当期変動額合計	120	-
<b>純資産合計</b>		
当期首残高	117,780	115,691
当期変動額		
剰余金の配当	2,056	1,673
当期純利益	1,899	2,814
自己株式の取得	1,720	1,983
自己株式の処分	-	0
連結子会社株式の取得による持分の増減	103	-
利益剰余金から資本剰余金への振替	-	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	107	1,872
当期変動額合計	2,089	1,031
当期末残高	115,691	116,722

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	4,321	4,146
減価償却費	680	644
減損損失	-	3
貸倒引当金の増減額（ は減少）	11	84
退職給付引当金の増減額（ は減少）	57	152
投資損失引当金の増減額（ は減少）	9	37
受取利息及び受取配当金	368	178
支払利息	168	180
有形固定資産除売却損益（ は益）	7	34
投資有価証券売却損益（ は益）	-	6
投資有価証券評価損益（ は益）	138	35
その他の損益（ は益）	10	980
売上債権の増減額（ は増加）	12,427	14,941
たな卸資産の増減額（ は増加）	1,683	6,319
仕入債務の増減額（ は減少）	2,417	9,244
その他の資産・負債の増減額	940	1,306
小計	5,850	18,989
利息及び配当金の受取額	368	185
利息の支払額	169	183
法人税等の支払額又は還付額（ は支払）	2,705	1,302
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,356	17,689
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の純増減額（ は増加）	0	3,000
有形固定資産の取得による支出	169	214
有形固定資産の売却による収入	10	74
無形固定資産の取得による支出	332	153
投資有価証券の取得による支出	57	-
投資有価証券の売却による収入	7	7
子会社株式の取得による支出	115	-
出資金の払込による支出	53	3
出資金の売却による収入	-	1
貸付けによる支出	25	7
貸付金の回収による収入	3	8
保険積立金の積立による支出	303	427
保険積立金の解約による収入	100	201
投資活動によるキャッシュ・フロー	936	2,485

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（ は減少）	4,319	695
リース債務の返済による支出	115	131
自己株式の取得による支出	1,720	1,983
自己株式の処分による収入	-	0
配当金の支払額	2,056	1,673
少数株主への配当金の支払額	6	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	419	4,483
現金及び現金同等物に係る換算差額	253	658
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	9,126	16,350
現金及び現金同等物の期首残高	43,239	34,113
現金及び現金同等物の期末残高	34,113	50,463

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 12社

主要な連結子会社の名称

「第1企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため省略しております。

(2) 主要な非連結子会社の名称等

主要な非連結子会社

株式会社イーシーリョーサン

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社8社は、いずれも小規模会社であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2 持分法の適用に関する事項

持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社のうち主要な会社の名称

株式会社イーシーリョーサン

持分法を適用しない理由

持分法非適用会社は、それぞれ当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用から除外しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のZHONG LING INTERNATIONAL TRADING (SHANGHAI) CO., LTD.の決算日は12月31日であり、連結決算日現在で本決算に準じた仮決算を行った財務諸表を基礎としております。

4 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

イ 満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)

ロ 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

ハ その他有価証券

(イ) 時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

(ロ) 時価のないもの

移動平均法による原価法

デリバティブ(為替予約)

時価法

たな卸資産...商品・製品・原材料及び仕掛品

移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

主として定率法によっております。

ただし、当社については、平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備を除く)については定額法によっております。

主な耐用年数は、建物及び構築物は3年から50年、その他は2年から15年であります。

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

## リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

### (3) 重要な引当金の計上基準

#### 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

#### 投資損失引当金

関係会社に対する投資による損失に備えるため、関係会社の財政状態を勘案し、その必要額を計上しております。

#### 退職給付引当金

従業員に対する退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の年数（10年）による定額法により、按分した額をそれぞれ発生の日連結会計年度から費用処理しております。また、過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により、按分した額をそれぞれ発生した連結会計年度から費用処理しております。

### (4) 重要な外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債は連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額のうち、当社持分は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

### (5) 重要なヘッジ会計の方法

#### ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。なお、振当処理の要件を満たしている為替予約取引については、振当処理を行っております。

#### ヘッジ手段とヘッジ対象

イ ヘッジ手段...為替予約取引

ロ ヘッジ対象...外貨建債権・債務及び外貨建予定取引

#### ヘッジ方針

当社グループは、外貨建取引に係る将来の為替変動リスクをヘッジするため、主として当社の「社内為替管理制度」に基づき、原則として、顧客からの受注時又は仕入先への発注時に、その取引毎に決済日を基準として個別に為替予約取引を行うものとしております。

#### ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ方針により、外貨建ての受注金額、発注金額又は金銭債権債務に同一通貨建てによる同一金額で同一期日の為替予約を振り当てる方法によっており、為替予約締結後の外国為替相場の変動による対応関係が確保されるようにしております。

### (6) のれんの償却方法及び償却期間

5年間の定額法により償却しております。

### (7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3か月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能で、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない短期的な投資からなっております。

### (8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理について

税抜方式によっております。

(会計方針の変更等)

(会計上の見積りの変更と区分することが困難な会計方針の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、当連結会計年度より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これにより、従来の方と比べて、当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益に与える影響は軽微であります。

(未適用の会計基準等)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日)及び「退職給付に関する会計基準の適用基準」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日)

(1) 概要

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用は、連結貸借対照表の純資産の部において税効果を調整した上で認識し、積立状況を示す額を負債又は資産として計上する方法に改正されております。また、退職給付見込額の期間帰属方法について、期間定額基準のほか給付算定式基準の適用が可能となったほか、割引率の算定方法が改正されております。

(2) 適用予定日

平成25年4月1日以後開始する連結会計年度の期末から適用予定です。ただし、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の改正については、平成26年4月1日より開始する連結会計年度の期首より適用予定です。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

連結財務諸表作成時において連結財務諸表に与える影響は、現在評価中であります。

(連結貸借対照表関係)

1 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
投資有価証券(株式)	52百万円	52百万円
その他(出資金)	308	308

2 担保に供している資産

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
投資有価証券	58百万円	83百万円
	上記資産は、アルプス電気株式会社等の仕入債務(4,646百万円)の担保に供しております。	上記資産は、アルプス電気株式会社等の仕入債務(3,520百万円)の担保に供しております。

3 連結会計期間末日満期手形等の会計処理については、手形交換日及び振込実施日をもって決済処理しております。なお、当連結会計年度の末日は金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形等が連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
受取手形及び売掛金	6,445百万円	3,527百万円
買掛金	1,867百万円	1,201百万円

4 偶発債務

次の会社の金融機関からの借入に対して次のとおり保証書を差入れております。

前連結会計年度 (平成24年3月31日)		当連結会計年度 (平成25年3月31日)	
DALIAN F.T.Z RYOSAN INTERNATIONAL TRADING CO., LTD.	164百万円 (2,000 千米ドル)	DALIAN F.T.Z RYOSAN INTERNATIONAL TRADING CO., LTD.	301百万円 (3,200 千米ドル)
RYOSAN ELECTRONICS (FOSHAN) CO., LTD.	22百万円 (1,736 千中国元)	RYOSAN EUROPE GMBH	188百万円 (1,562 千ユーロ)
RYOSAN TECHNOLOGIES USA INC.	20百万円 (250 千米ドル)		

(連結損益計算書関係)

1 通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下後の金額であり、前連結会計年度の評価損の戻入額と当連結会計年度の評価損を相殺した結果の金額

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
売上原価に含まれるたな卸資産評価損	28百万円	176百万円

2 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
土地売却益		31百万円
その他		2
計		34

3 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
建物及び構築物	2百万円	0百万円
その他	5	
計	7	

4 一般管理費に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
	498百万円	623百万円

5 減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

前連結会計年度(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

場所	用途	種類
山梨県鳴沢村	遊休資産	土地

当社グループは、原則として、営業拠点を基本単位としてグルーピングを行っており、遊休資産については物件単位毎にグルーピングしております。

事業の用に供していない遊休資産となっている土地について、時価が著しく下落した資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(3百万円)として特別損失に計上しました。

なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却価額により測定しており、正味売却価額は不動産鑑定士からの調査価格等を基に算定した金額により評価しております。



(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	122百万円	202百万円
組替調整額	138	35
税効果調整前	15	238
税効果額	19	84
その他有価証券評価差額金	35	153
繰延ヘッジ損益：		
当期発生額	13	3
税効果調整前	13	3
税効果額	4	1
繰延ヘッジ損益	9	2
為替換算調整勘定：		
当期発生額	133	1,721
税効果調整前	133	1,721
為替換算調整勘定	133	1,721
その他の包括利益合計	89	1,872

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数	当連結会計年度 増加株式数	当連結会計年度 減少株式数	当連結会計年度末 株式数
普通株式(株)	34,500,000	-	-	34,500,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数	当連結会計年度 増加株式数	当連結会計年度 減少株式数	当連結会計年度末 株式数
普通株式(株)	34,704	1,000,721	-	1,035,425

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

定款に基づく自己株式の買取りによる増加 1,000,000株

単元未満株式の買取りによる増加 721株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年5月12日 取締役会	普通株式	1,378	40	平成23年3月31日	平成23年6月8日
平成23年10月31日 取締役会	普通株式	678	20	平成23年9月30日	平成23年12月1日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年5月11日 取締役会	普通株式	利益剰余金	669	20	平成24年3月31日	平成24年6月6日

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数	当連結会計年度 増加株式数	当連結会計年度 減少株式数	当連結会計年度末 株式数
普通株式（株）	34,500,000	-	-	34,500,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数	当連結会計年度 増加株式数	当連結会計年度 減少株式数	当連結会計年度末 株式数
普通株式（株）	1,035,425	1,000,418	49	2,035,794

（変動事由の概要）

増加数の内訳は、次のとおりであります。

定款に基づく自己株式の買取りによる増加	1,000,000株
単元未満株式の買取りによる増加	418株
単元未満株式の売渡しによる減少	49株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

（1）配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	1株当たり配当額 （円）	基準日	効力発生日
平成24年5月11日 取締役会	普通株式	669	20	平成24年3月31日	平成24年6月6日
平成24年10月31日 取締役会	普通株式	1,003	30	平成24年9月30日	平成24年12月4日

（2）基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 （百万円）	1株当たり配 当額（円）	基準日	効力発生日
平成25年5月9日 取締役会	普通株式	利益剰余金	973	30	平成25年3月31日	平成25年6月5日

（連結キャッシュ・フロー計算書関係）

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 （自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）		当連結会計年度 （自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）	
	現金及び預金勘定	34,114百万円		50,464百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	1		1	
現金及び現金同等物	34,113		50,463	

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(ア) 有形固定資産

主として販売物流情報システム用ハードウェア(工具、器具及び備品)であります。

(イ) 無形固定資産

主として販売物流情報システム用ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2 オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
1年内	72	196
1年超	62	125
合計	134	321

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的かつ安全性の高い金融資産で運用することを基本としております。また、資金調達については後述する為替変動リスクを回避するために短期的な外貨建て資金を銀行借入により調達しております。デリバティブは、外貨建て取引に係る将来の為替変動リスクを回避するための為替予約に限定し、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社グループの債権管理規程、販売管理規程に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、顧客の信用状況を定期的に把握しております。

また、海外に事業展開していることから生じる外貨建ての営業債権は為替の変動リスクに晒されておりますが、原則として外貨建ての営業債務とネットしたポジションについて外貨建てで銀行借入を行うことにより、為替の変動リスクを回避しております。営業取引については、仕入通貨と売上通貨は同一にすることを原則としておりますが、同一に出来ない取引の場合は、先物為替予約を利用してヘッジしております。

投資有価証券は、満期保有目的の債券及び業務上の関係を有する企業の株式であり市場価格の変動リスクに晒されておりますが、定期的に把握した時価を取締役に報告しております。

営業債務である買掛金の支払期日は1年以内であります。また、その一部には外貨建て営業債務があり為替の変動リスクに晒されておりますが、恒常的に外貨建て営業債権残高の範囲内にあります。

短期借入金は上記の為替変動リスクを回避するための外貨建て銀行借入であります。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした先物為替予約取引であります。なお、ヘッジ会計の方法、ヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性評価の方法については、前述の「会計処理基準に関する事項」の「重要なヘッジ会計の方法」に記載しております。

また、営業債務及び短期借入金の流動性リスクについては、当社グループが保有する現預金で十分カバー出来るものと判断しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

「デリバティブ取引関係」注記におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません（（注2）参照）。

前連結会計年度（平成24年3月31日）

（単位：百万円）

	連結貸借対照表計上額 （*）	時価（*）	差額
(1) 現金及び預金	34,114	34,114	-
(2) 受取手形及び売掛金	81,123	81,123	-
(3) 未収入金	2,989	2,989	-
(4) 投資有価証券			
満期保有目的の債券	1,000	722	277
その他有価証券	1,993	1,993	-
(5) 買掛金	(33,549)	(33,549)	-
(6) 短期借入金	(11,850)	(11,850)	-
(7) 未払金	(1,761)	(1,761)	-
(8) 未払法人税等	(338)	(338)	-
(9) デリバティブ取引	5	5	-

（\*）負債に計上されているものについては、（ ）で示しております。

当連結会計年度（平成25年3月31日）

（単位：百万円）

	連結貸借対照表計上額 （*）	時価（*）	差額
(1) 現金及び預金	50,464	50,464	-
(2) 受取手形及び売掛金	68,101	68,101	-
(3) 未収入金	1,390	1,390	-
(4) 投資有価証券			
満期保有目的の債券	1,000	779	220
その他有価証券	2,195	2,195	-
(5) 買掛金	(25,261)	(25,261)	-
(6) 短期借入金	(12,850)	(12,850)	-
(7) 未払金	(841)	(841)	-
(8) 未払法人税等	(689)	(689)	-
(9) デリバティブ取引	(5)	(5)	-

（\*）負債に計上されているものについては、（ ）で示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金並びに(3) 未収入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

投資有価証券の時価は上場株式については、取引所の価格によっており、債券は取引金融機関から提示された価格によっております。また、保有目的ごとの投資有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記に記載しております。

(5) 買掛金、(6) 短期借入金、(7) 未払金並びに(8) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから当該帳簿価額によっております。

(9) デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」注記に記載しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	平成24年3月31日(百万円)	平成25年3月31日(百万円)
非上場株式	91	90

これらについては、市場価額がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4) 投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額  
前連結会計年度(平成24年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	34,114	-	-	-
受取手形及び売掛金	81,123	-	-	-
未収入金	2,989	-	-	-
投資有価証券				
満期保有目的の債券	-	-	-	1,000
合計	118,227	-	-	1,000

当連結会計年度(平成25年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	50,464	-	-	-
受取手形及び売掛金	68,101	-	-	-
未収入金	1,390	-	-	-
投資有価証券				
満期保有目的の債券	-	-	-	1,000
合計	119,956	-	-	1,000



(有価証券関係)

1 満期保有目的の債券

前連結会計年度(平成24年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	1,000	722	277

当連結会計年度(平成25年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	1,000	779	220

2 その他有価証券

前連結会計年度(平成24年3月31日)

区分		連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	1,679	1,137	542
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	313	340	27
合計		1,993	1,478	514

(注) 1 非上場株式は含まれておりません。

2 時価のある株式について138百万円の減損処理を行っております。なお、その他有価証券で時価のあるものの減損処理にあたっては、時価の下落率が40%以上の株式について減損処理することとしております。

当連結会計年度(平成25年3月31日)

区分		連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	2,107	1,341	766
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	88	101	13
合計		2,195	1,443	752

(注) 1 非上場株式は含まれておりません。

2 時価のある株式について35百万円の減損処理を行っております。なお、その他有価証券で時価のあるものの減損処理にあたっては、時価の下落率が40%以上の株式について減損処理することとしております。

3 売却したその他有価証券

前連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	7	-	-

当連結会計年度(自平成24年4月1日至平成25年3月31日)

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	7	6	-

(デリバティブ取引関係)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前連結会計年度(平成24年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(平成25年3月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の 取引	為替予約取引 売建				
	日本円	7	-	0	0
	買建				
	米ドル	667	-	5	5
	日本円	120	-	0	0
	合計	795	-	6	6

(注) 時価の算定方法 取引金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

前連結会計年度(平成24年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
為替予約等の振当 処理	為替予約取引 買建	買掛金			
	米ドル		131	-	5
	合計		131	-	5

(注) 時価の算定方法 取引金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(平成25年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
為替予約等の振当 処理	為替予約取引 売建	売掛金及び買掛金			
	米ドル		4	-	-
	買建				
	米ドル		167	-	0
	合計		171	-	0

(注) 時価の算定方法 取引金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社は、平成23年11月1日より退職金規程に基づく社内積立の退職一時金制度及び定年適格退職年金制度から確定給付企業年金制度へ移行しております。また、当社は確定拠出年金制度も導入しており、一部の連結子会社は、確定給付型制度を設けております。

2 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
(1) 退職給付債務(百万円)	4,667	4,825
(2) 年金資産(百万円)	2,728	2,942
(3) 未認識数理計算上の差異(百万円)	351	274
(4) 未認識過去勤務債務(百万円)	15	7
(5) 退職給付引当金(百万円)	2,275	2,149

(注) 一部の連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

3 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
(1) 勤務費用(百万円)	315	320
(2) 利息費用(百万円)	87	69
(3) 期待運用収益(百万円)	18	34
(4) 数理計算上の差異の費用処理額(百万円)	11	81
(5) 過去勤務債務の費用処理額(百万円)	7	7
(6) 小計(百万円)	380	282
(7) 確定拠出年金掛金(百万円)	84	85
(8) 退職給付費用(百万円)	465	367

(注) 簡便法を適用している連結子会社の退職給付費用は「勤務費用」に計上しております。

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 退職給付見込額の期間配分方法

期間定額基準

(2) 割引率

前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
1.5%	1.5%

(3) 期待運用収益率

前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
0.75%	1.25%

(4) 数理計算上の差異の処理年数 10年

(5) 過去勤務債務の額の処理年数 10年

(ストック・オプション等関係)  
該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
繰延税金資産		
たな卸資産評価損	71百万円	135百万円
ソフトウェア等償却	98	59
投資有価証券	174	145
ゴルフ会員権	110	111
未払賞与	209	199
退職給付引当金	743	719
貸倒引当金	467	323
子会社繰越欠損金	238	333
その他	271	360
繰延税金資産小計	2,385	2,390
評価性引当額	966	611
繰延税金資産合計	1,418	1,779
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	109	152
その他	91	181
繰延税金負債合計	201	333
繰延税金資産の純額	1,217	1,445

繰延税金資産の純額は連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	276百万円	514百万円
固定資産 - 繰延税金資産	958	947
流動負債 - その他	1	-
固定負債 - その他	16	17

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
法定実効税率	40.7%	38.0%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	4.7	3.6
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	2.9	1.8
住民税均等割	0.9	0.9
連結子会社からの受取配当金消去	1.0	1.1
外国源泉税	1.3	0.6
評価引当額の増減	8.5	5.5
外国子会社との税率差異	3.3	6.9
連結留保利益	0.4	2.1
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	3.5	-
その他	1.2	0.0
税効果会計適用後の法人税等の負担率	56.0	32.1

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、事業セグメント別の財務情報により作成し、最高経営責任者が定期的に業績を評価する対象となっているものであります。

当社グループは、本社に商品・製品別の事業本部を置き、各事業本部は取り扱う商品・製品について国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

従って当社グループは事業本部を基礎として、「半導体事業」、「電子部品事業」、「電子機器事業」及び「生産事業」の4つを報告セグメントとしております。

各事業区分の主要な商品・製品の名称は下記のとおりであります。

- 半導体事業 ..... メモリ・システムLSI・個別半導体
- 電子部品事業 ..... 表示デバイス・電源・機構部品
- 電子機器事業 ..... システム機器・設備機器
- 生産事業 ..... ヒートシンク(半導体素子用放熱器)

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

前連結会計年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	連結損益計 算書計上額 (注)2
	半導体事業	電子部品事 業	電子機器事 業	生産事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	132,372	55,403	24,658	5,452	217,887	-	217,887
セグメント間の内部売 上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	132,372	55,403	24,658	5,452	217,887	-	217,887
セグメント利益	2,402	1,805	878	220	5,306	1,795	3,511

(注)1 セグメント利益の調整額 1,795百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3 セグメント資産は、最高経営責任者が業績を評価する対象となっていないため記載しておりません。

当連結会計年度(自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	連結損益計 算書計上額 (注)2
	半導体事業	電子部品事 業	電子機器事 業	生産事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	131,172	51,008	19,519	4,833	206,534	-	206,534
セグメント間の内部売 上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	131,172	51,008	19,519	4,833	206,534	-	206,534
セグメント利益	3,120	1,723	995	210	6,050	2,376	3,673

(注)1 セグメント利益の調整額 2,376百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3 セグメント資産は、最高経営責任者が業績を評価する対象となっていないため記載しておりません。

【関連情報】

1 製品及びサービスごとの情報

報告セグメントと同一区分のため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

前連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

（単位：百万円）

日本	アジア	合計
149,265	68,621	217,887

（注）売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

当連結会計年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

（単位：百万円）

日本	アジア	合計
131,264	75,270	206,534

（注）売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

前連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

（単位：百万円）

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
三菱電機株式会社	31,303	半導体事業、電子部品事業

当連結会計年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

（単位：百万円）

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
三菱電機株式会社	21,275	半導体事業、電子部品事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

遊休資産のため、報告セグメントに配分されない減損損失 3百万円

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

（単位：百万円）

	半導体事業	電子部品事業	電子機器事業	生産事業	全社・消去	合計
当期償却額	71	17	0	-	-	89
当期末残高	247	34	3	-	-	285

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

（単位：百万円）

	半導体事業	電子部品事業	電子機器事業	生産事業	全社・消去	合計
当期償却額	71	17	0	0	-	89
当期末残高	187	17	2	14	-	222

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

該当事項はありません。

（企業結合等関係）

該当事項はありません。



( 1 株当たり情報 )

項目	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
1株当たり純資産額	3,457.13円	3,595.42円
1株当たり当期純利益金額	55.90円	84.40円

(注) 1 潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりませ  
ん。

2 算定上の基礎

(1) 1株当たり純資産額

項目	前連結会計年度 (平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (平成25年 3月31日)
純資産の部の合計額 (百万円)	115,691	116,722
純資産の部の合計額から控除する金額 (百万円)	-	-
(うち少数株主持分)	(-)	(-)
普通株式に係る期末の純資産額 (百万円)	115,691	116,722
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の 普通株式の数 (千株)	33,464	32,464

(2) 1株当たり当期純利益金額

項目	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益 (百万円)	1,899	2,814
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益 (百万円)	1,899	2,814
普通株式の期中平均株式数 (千株)	33,982	33,349

(重要な後発事象)

自己株式の取得

平成25年5月24日開催の取締役会において、会社法第459条第1項の規定による定款の定めに基づき、自己株式取得に係る事項及びその具体的な取得方法について決議し、自己株式を取得しております。

1. 自己株式の取得を行う理由

経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行するため。

2. 取得に係る事項の内容

東京証券取引所の自己株式立会外買付取引(TOSTNET-3)を利用した買付け及び東京証券取引所における市場買付け

(1) 自己株式立会外買付取引(TOSTNET-3)を利用した買付け

取得する株式の種類	普通株式
取得する株式の数	500,000株(上限)
株式取得価額の総額	879百万円(上限)
取得方法	平成25年5月24日の終値(最終特別気配を含む)1,758円で、平成25年5月27日午前8時45分の東京証券取引所の自己株式立会外買付取引(TOSTNET-3)による買付け

(2) 市場買付け

取得する株式の種類	普通株式
取得する株式の数	500,000株(上限)
株式取得価額の総額	1,250百万円(上限)
取得期間	平成25年5月28日～平成25年6月14日

3. 取得結果

取得した株式の数	1,000,000株
取得した株式の価額の総額	1,799百万円
取得日	平成25年5月27日～平成25年6月10日
取得方法	東京証券取引所の自己株式立会外買付取引(TOSTNET-3)による買付け及び市場買付け

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	11,850	12,850	1.13	-
1年以内に返済予定の長期借入金	-	-	-	-
1年以内に返済予定のリース債務	112	138	1.76	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	-	-	-	-
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	155	242	1.70	平成25年4月1日～ 平成32年1月31日
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	12,119	13,231	-	-

(注) 1 「平均利率」については、借入金等の当期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 短期借入金の当期末残高12,850百万円は主に米ドル建(118,124千米ドル)であります。

3 リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年以内における返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内
リース債務(百万円)	81	71	62	23

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	51,911	106,185	155,926	206,534
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(百万円)	1,288	2,544	3,289	4,146
四半期(当期)純利益金額 (百万円)	791	1,552	1,989	2,814
1株当たり四半期(当期)純 利益金額(円)	23.64	46.40	59.44	84.40

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	23.64	22.76	13.04	24.96

2【財務諸表等】  
(1)【財務諸表】  
【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	29,815	44,834
受取手形	3 2,323	3 1,966
売掛金	2, 3 65,517	2, 3 53,296
商品及び製品	16,882	13,380
原材料	148	114
仕掛品	123	113
未収入金	2 3,025	2 1,451
繰延税金資産	336	390
その他	1,090	453
貸倒引当金	35	48
流動資産合計	119,227	115,954
固定資産		
有形固定資産		
建物	10,205	10,013
減価償却累計額	5,897	5,886
建物（純額）	4,308	4,126
構築物	220	221
減価償却累計額	199	201
構築物（純額）	21	19
機械及び装置	953	984
減価償却累計額	846	886
機械及び装置（純額）	106	98
工具、器具及び備品	2,807	2,824
減価償却累計額	2,588	2,599
工具、器具及び備品（純額）	218	225
土地	8,074	8,065
リース資産	603	828
減価償却累計額	381	495
リース資産（純額）	221	332
有形固定資産合計	12,950	12,868
無形固定資産		
のれん	210	155
電話加入権	48	48
ソフトウェア	186	298
リース資産	12	14
無形固定資産合計	457	515

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	1 3,031	1 3,233
関係会社株式	1,389	1,379
出資金	174	173
関係会社出資金	667	667
関係会社長期貸付金	957	365
長期預金	3,000	-
破産更生債権等	908	973
繰延税金資産	935	1,111
その他	1,066	1,356
貸倒引当金	1,701	1,182
投資損失引当金	156	108
投資その他の資産合計	10,273	7,971
固定資産合計	23,682	21,354
資産合計	142,909	137,309
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	1, 2, 3 26,347	1, 2, 3 19,727
短期借入金	5,103	7,919
リース債務	112	138
未払金	2 1,255	2 772
未払費用	802	748
未払法人税等	250	535
前受金	57	63
預り金	94	83
その他	1	-
流動負債合計	34,025	29,989
<b>固定負債</b>		
リース債務	155	242
退職給付引当金	1,996	1,894
その他	43	59
固定負債合計	2,196	2,197
負債合計	36,222	32,186

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	17,690	17,690
<b>資本剰余金</b>		
資本準備金	19,114	19,114
資本剰余金合計	19,114	19,114
<b>利益剰余金</b>		
利益準備金	1,371	1,371
<b>その他利益剰余金</b>		
別途積立金	64,300	64,300
繰越利益剰余金	5,683	5,950
利益剰余金合計	71,355	71,622
自己株式	1,806	3,789
株主資本合計	106,353	104,638
<b>評価・換算差額等</b>		
その他有価証券評価差額金	331	484
繰延ヘッジ損益	2	0
評価・換算差額等合計	333	485
純資産合計	106,687	105,123
負債純資産合計	142,909	137,309

## 【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
売上高		
商品売上高	154,718	139,689
製品売上高	5,888	5,329
売上高合計	<u>2 160,606</u>	<u>2 145,019</u>
売上原価		
商品売上原価		
商品期首たな卸高	16,436	16,717
当期商品仕入高	<u>2 142,937</u>	<u>2 124,939</u>
合計	<u>159,373</u>	<u>141,656</u>
商品期末たな卸高	16,717	13,246
商品売上原価	<u>142,656</u>	<u>128,410</u>
製品売上原価		
製品期首たな卸高	234	165
当期製品製造原価	4,862	4,453
当期製品仕入高	25	3
合計	<u>5,121</u>	<u>4,621</u>
製品期末たな卸高	165	133
製品売上原価	<u>4,956</u>	<u>4,488</u>
売上原価合計	<u>1 147,612</u>	<u>1 132,898</u>
売上総利益	<u>12,993</u>	<u>12,120</u>
販売費及び一般管理費		
荷造運搬費	444	399
貸倒引当金繰入額	168	149
役員報酬	271	235
給料及び手当	2,771	2,660
賞与	763	694
退職給付費用	110	266
福利厚生費	690	674
旅費及び交通費	430	402
賃借料	370	367
保険料	73	44
支払手数料	2,079	2,125
減価償却費	489	468
研究開発費	<u>3 498</u>	<u>3 623</u>
その他	1,807	1,743
販売費及び一般管理費合計	<u>10,971</u>	<u>10,856</u>
営業利益	<u>2,022</u>	<u>1,264</u>

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
<b>営業外収益</b>		
受取利息	76	50
有価証券利息	6	5
受取配当金	<sup>2</sup> 1,357	<sup>2</sup> 561
経営指導料	<sup>2</sup> 300	<sup>2</sup> 297
受取手数料	499	400
雑収入	<sup>2</sup> 443	<sup>2</sup> 404
営業外収益合計	2,684	1,720
<b>営業外費用</b>		
支払利息	34	45
為替差損	10	152
雑損失	12	18
営業外費用合計	57	216
経常利益	4,649	2,768
<b>特別利益</b>		
固定資産売却益	-	<sup>4</sup> 31
投資有価証券売却益	-	6
投資損失引当金戻入額	-	37
特別利益合計	-	75
<b>特別損失</b>		
固定資産売却損	<sup>5</sup> 5	-
減損損失	-	<sup>6</sup> 3
投資有価証券評価損	138	35
投資損失引当金繰入額	9	-
ゴルフ会員権評価損	-	4
特別損失合計	153	42
税引前当期純利益	4,496	2,800
法人税、住民税及び事業税	1,339	1,174
法人税等調整額	999	315
法人税等合計	2,338	859
当期純利益	2,157	1,940



【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)		当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
材料費		1,553	31.8	1,248	28.1
外注加工費		1,995	40.9	2,059	46.4
労務費		1,039	21.3	879	19.8
経費					
1 減価償却費		76		62	
2 消耗品費		20		20	
3 水道光熱費		29		32	
4 その他		167		139	
計		293	6.0	254	5.7
当期総製造費用		4,881	100.0	4,442	100.0
期首仕掛品たな卸高		104		123	
合計		4,985		4,566	
期末仕掛品たな卸高		123		113	
当期製品製造原価		4,862		4,453	

(注) 原価計算の方法 - 当社は総合原価計算によっておりますが一部(ソフトウェア)については個別原価計算を採用しております。

## 【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
当期首残高	17,690	17,690
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	17,690	17,690
<b>資本剰余金</b>		
<b>資本準備金</b>		
当期首残高	19,114	19,114
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	19,114	19,114
<b>その他資本剰余金</b>		
当期首残高	-	-
当期変動額		
自己株式の処分	-	0
利益剰余金から資本剰余金への振替	-	0
当期変動額合計	-	-
当期末残高	-	-
<b>資本剰余金合計</b>		
当期首残高	19,114	19,114
当期変動額		
自己株式の処分	-	0
利益剰余金から資本剰余金への振替	-	0
当期変動額合計	-	-
当期末残高	19,114	19,114
<b>利益剰余金</b>		
<b>利益準備金</b>		
当期首残高	1,371	1,371
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,371	1,371
<b>その他利益剰余金</b>		
<b>別途積立金</b>		
当期首残高	64,300	64,300
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	64,300	64,300
<b>繰越利益剰余金</b>		
当期首残高	5,582	5,683
当期変動額		
剰余金の配当	2,056	1,673
当期純利益	2,157	1,940
利益剰余金から資本剰余金への振替	-	0
当期変動額合計	100	267
当期末残高	5,683	5,950

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
<b>利益剰余金合計</b>		
当期首残高	71,254	71,355
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	2,056	1,673
当期純利益	2,157	1,940
利益剰余金から資本剰余金への振替	-	0
<b>当期変動額合計</b>	100	267
当期末残高	71,355	71,622
<b>自己株式</b>		
当期首残高	85	1,806
<b>当期変動額</b>		
自己株式の取得	1,720	1,983
自己株式の処分	-	0
<b>当期変動額合計</b>	1,720	1,983
当期末残高	1,806	3,789
<b>株主資本合計</b>		
当期首残高	107,973	106,353
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	2,056	1,673
当期純利益	2,157	1,940
自己株式の取得	1,720	1,983
自己株式の処分	-	0
利益剰余金から資本剰余金への振替	-	-
<b>当期変動額合計</b>	1,620	1,715
当期末残高	106,353	104,638
<b>評価・換算差額等</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
当期首残高	295	331
<b>当期変動額</b>		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	35	153
<b>当期変動額合計</b>	35	153
当期末残高	331	484
<b>繰延ヘッジ損益</b>		
当期首残高	0	2
<b>当期変動額</b>		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2	2
<b>当期変動額合計</b>	2	2
当期末残高	2	0
<b>評価・換算差額等合計</b>		
当期首残高	295	333
<b>当期変動額</b>		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	38	151
<b>当期変動額合計</b>	38	151
当期末残高	333	485

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
<b>純資産合計</b>		
当期首残高	108,269	106,687
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	2,056	1,673
当期純利益	2,157	1,940
自己株式の取得	1,720	1,983
自己株式の処分	-	0
利益剰余金から資本剰余金への振替	-	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	38	151
当期変動額合計	1,582	1,564
当期末残高	106,687	105,123

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)

(2) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(3) その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2 デリバティブ(為替予約)の評価基準及び評価方法

時価法

3 たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品・製品・原材料及び仕掛品

移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

4 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法によっております。

ただし、平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備を除く)については定額法によっております。主な耐用年数は、建物は3年から50年、機械及び装置並びに工具、器具及び備品は2年から15年であります。

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、のれんは5年で償却し、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

5 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、為替予約の振当処理の対象となっている外貨建金銭債権債務については、当該為替予約の円貨額に換算しております。

6 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 投資損失引当金

関係会社に対する投資による損失に備えるため、関係会社の財政状態を勘案し、その必要額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員に対する退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の年数（10年）による定額法により、按分した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理しております。また、過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により、按分した額をそれぞれ発生した事業年度から費用処理しております。

7 ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。なお、為替予約が付されている外貨建債権債務については振当処理を行っております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段

為替予約取引

ヘッジ対象

外貨建債権・債務、外貨建予定取引

(3) ヘッジ方針

外貨建取引に係る将来の為替変動リスクをヘッジするため、「社内為替管理制度」に基づき、原則として、顧客からの受注時又は仕入先への発注時に、その取引毎に決済日を基準として個別に為替予約取引を行うものとしております。

(4) ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ方針により、外貨建ての受注金額、発注金額又は金銭債権債務に同一通貨建てによる同一金額で同一期日の為替予約を振り当てる方法によっており、為替予約締結後の外国為替相場の変動による対応関係が確保されるようにしております。

8 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理について

税抜方式によっております。

（会計方針の変更）

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

当社は、法人税法の改正に伴い、当事業年度より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づき減価償却の方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当事業年度の営業利益、経常利益及び税引前当期純利益に与える影響は軽微であります。

(貸借対照表関係)

1 担保に供している資産

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
投資有価証券	58百万円	83百万円
	上記資産は、アルプス電気株式会社等の仕入債務(4,646百万円)の担保に供しております。	上記資産は、アルプス電気株式会社等の仕入債務(3,520百万円)の担保に供しております。

2 関係会社に対する主な資産・負債

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
売掛金	929百万円	1,283百万円
未収入金	166	201
買掛金	66	24
未払金	140	109

3 事業年度末日満期手形等の会計処理については、手形交換日及び振込実施日をもって決済処理しております。  
なお、当事業年度の末日は金融機関の休日であったため、次の事業年度末日満期手形等が事業年度末残高に含まれております。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
受取手形	338百万円	173百万円
売掛金	6,107	3,354
買掛金	1,867	1,201

4 偶発債務

(1) 次の会社の金融機関からの借入等に対し、保証書又は経営指導念書を差入れております。

前事業年度 (平成24年3月31日)		当事業年度 (平成25年3月31日)	
RYOSAN (THAILAND) CO., LTD.	2,256百万円 (845,000 千タイバーツ)	RYOSAN (THAILAND) CO., LTD.	1,440百万円 (450,000 千タイバーツ)
ZHONG LING INTERNATIONAL TRADING (SHAGHAI) CO., LTD.	2,631百万円 (32,009 千米ドル)	ZHONG LING INTERNATIONAL TRADING (SHAGHAI) CO., LTD.	1,697百万円 (18,000 千米ドル)
HONG KONG RYOSAN LIMITED	998百万円 (11,972 千米ドル他)	RYOTAI CORPORATION	932百万円 9,919 千米ドル)
RYOTAI CORPORATION	601百万円 7,324 千米ドル)	KOREA RYOSAN CORPORATION	447百万円 250,000 千円他)
RYOSAN IPC (MALAYSIA) SDN. BHD.	474百万円 5,700 千米ドル他)	RYOSAN IPC (MALAYSIA) SDN. BHD.	426百万円 4,400 千米ドル他)
その他関係会社 5 社	410百万円 3,550 千米ドル他)	その他関係会社 3 社	492百万円 3,200 千米ドル他)
計	7,373百万円	計	5,435百万円

(2) 次の会社の取引先からの仕入債務に対し、保証を行っております。

前事業年度 (平成24年3月31日)		当事業年度 (平成25年3月31日)	
HONG HONG RYOSAN LIMITED	852百万円 (10,378 千米ドル)	HONG HONG RYOSAN LIMITED	333百万円 (3,549 千米ドル)
ZHONG LING INTERNATIONAL TRADING (SHANGHAI) CO., LTD.	126百万円 (1,543 千中国元)	RYOSAN (THAILAND) CO., LTD.	180百万円 (1,914 千米ドル)
その他関係会社 3 社	42百万円 (518 千米ドル)	その他関係会社 3 社	83百万円 (885 千米ドル)
計	1,022百万円	計	597百万円



(損益計算書関係)

1 通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下後の金額であり、前事業年度の評価損の戻入額と当事業年度の評価損を相殺した結果の金額

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
売上原価に含まれているたな卸資産評価損	8百万円	110百万円

2 関係会社取引高

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
売上高	7,446百万円	5,822百万円
仕入高	1,170	337
受取配当金	1,317	520
経営指導料	300	297
雑収入	308	290

3 一般管理費に含まれる研究開発費の総額

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
	498百万円	623百万円

4 固定資産売却益の内訳

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
土地売却益		31百万円

5 固定資産売却損の内訳

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
建物	2百万円	
機械装置	2	
工具、器具及び備品	1	
その他	0	
計	5	

## 6 減損損失

当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

前事業年度（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

場所	用途	種類
山梨県鳴沢村	遊休資産	土地

当社は、原則として、営業拠点を基本単位としてグルーピングを行っており、遊休資産については物件単位毎にグルーピングしております。

事業の用に供していない遊休資産となっている土地について、時価が著しく下落した資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（3百万円）として特別損失に計上しました。

なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却価額により測定しており、正味売却価額は不動産鑑定士からの調査価格等を基に算定した金額により評価しております。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首 株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株式数
普通株式(株)	34,704	1,000,721	-	1,035,425

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

定款に基づく自己株式の買取りによる増加 1,000,000株  
単元未満株式の買取りによる増加 721株

当事業年度(自平成24年4月1日至平成25年3月31日)

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首 株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株式数
普通株式(株)	1,035,425	1,000,418	49	2,035,794

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

定款に基づく自己株式の買取りによる増加 1,000,000株  
単元未満株式の買取りによる増加 418株  
単元未満株式の売渡しによる減少 49株

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(ア)有形固定資産

主として販売物流情報システム用ハードウェア(工具、器具及び備品)であります。

(イ)無形固定資産

主として販売物流情報システム用ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「4.固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2 オペレーティング・リース取引

重要性が低いため、記載を省略しております。

(有価証券関係)

前事業年度(平成24年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式1,389百万円、関連会社株式0百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(平成25年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式1,379百万円、関連会社株式0百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
繰延税金資産		
たな卸資産評価損	71百万円	113百万円
ソフトウェア等償却	98	59
投資有価証券	174	145
ゴルフ会員権	110	111
未払賞与	189	180
退職給付引当金	720	681
貸倒引当金	467	557
その他	268	317
繰延税金資産小計	2,101	2,167
評価性引当額	720	512
繰延税金資産合計	1,381	1,655
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	109	152
その他	1	0
繰延税金負債合計	110	153
繰延税金資産の純額	1,270	1,501

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
法定実効税率	40.7%	38.0%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	3.4	4.9
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	2.7	2.7
住民税均等割	0.9	1.3
外国子会社配当金	8.9	4.4
外国源泉税	1.3	0.9
評価性引当額の増減	13.4	7.9
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	3.4	-
その他	0.5	0.6
税効果会計適用後の法人税等の負担率	52.0	30.7

(企業結合等関係)  
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

項目	前事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
1株当たり純資産額	3,188.08円	3,238.12円
1株当たり当期純利益金額	63.49円	58.19円

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりませ  
ん。

2 算定上の基礎

(1) 1株当たり純資産額

項目	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
純資産の部の合計額 (百万円)	106,687	105,123
純資産の部の合計額から控除する金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る期末の純資産額 (百万円)	106,687	105,123
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の 普通株式の数 (千株)	33,464	32,464

(2) 1株当たり当期純利益金額

項目	前事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益 (百万円)	2,157	1,940
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益 (百万円)	2,157	1,940
普通株式の期中平均株式数 (千株)	33,982	33,349

(重要な後発事象)

自己株式の取得

平成25年5月24日開催の取締役会において、会社法第459条第1項の規定による定款の定めに基づき、自己株式取得に係る事項及びその具体的な取得方法について決議し、自己株式を取得しております。

1. 自己株式の取得を行う理由

経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行するため。

2. 取得に係る事項の内容

東京証券取引所の自己株式立会外買付取引(ToSTNet-3)を利用した買付け及び東京証券取引所における市場買付け

(1) 自己株式立会外買付取引(ToSTNet-3)を利用した買付け

取得する株式の種類	普通株式
取得する株式の数	500,000株(上限)
株式取得価額の総額	879百万円(上限)
取得方法	平成25年5月24日の終値(最終特別気配を含む)1,758円で、平成25年5月27日午前8時45分の東京証券取引所の自己株式立会外買付取引(ToSTNet-3)による買付け

(2) 市場買付け

取得する株式の種類	普通株式
取得する株式の数	500,000株(上限)
株式取得価額の総額	1,250百万円(上限)
取得期間	平成25年5月28日～平成25年6月14日

3. 取得結果

取得した株式の数	1,000,000株
取得した株式の価額の総額	1,799百万円
取得日	平成25年5月27日～平成25年6月10日
取得方法	東京証券取引所の自己株式立会外買付取引(ToSTNet-3)による買付け及び市場買付け

【附属明細表】  
【有価証券明細表】  
【株式】

銘柄		株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	
投資有価証券	その他有価証券	コーセル株式会社	247,732	263
		カシオ計算機株式会社	346,665	251
		株式会社エクセル	211,200	196
		日本航空電子工業株式会社	193,304	136
		ブラザー工業株式会社	132,900	130
		S M K 株式会社	491,160	127
		日本電気株式会社	501,570	122
		横河電機株式会社	126,800	119
		株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	187,400	104
		太陽誘電株式会社	84,000	99
		その他(36銘柄)	1,607,008	679
計		4,129,739	2,233	

【債券】

銘柄		券面総額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)	
投資有価証券	満期保有目的の 債券	大和証券株式会社 ユーロ円債(クーポン 日経平均リンク2,600回)	300	300
		大和証券株式会社 ユーロ円債(クーポン 日経平均リンク2,988回)	700	700
計		1,000	1,000	

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	10,205	29	221	10,013	5,886	175	4,126
構築物	220	0	-	221	201	2	19
機械及び装置	953	31	-	984	886	39	98
工具、器具及び備品	2,807	136	119	2,824	2,599	126	225
土地	8,074	-	9 (3)	8,065	-	-	8,065
リース資産	603	236	10	828	495	116	332
有形固定資産計	22,864	433	361 (3)	22,937	10,069	460	12,868
無形固定資産							
のれん	-	-	-	373	217	70	155
電話加入権	-	-	-	48	-	-	48
ソフトウェア	-	-	-	323	25	17	298
リース資産	-	-	-	50	36	6	14
無形固定資産計	-	-	-	795	279	94	515
長期前払費用	-	-	-	-	-	-	-
繰延資産							
-	-	-	-	-	-	-	-
繰延資産計	-	-	-	-	-	-	-

(注) 1 無形固定資産については、資産総額の1%以下であるので当期首残高、当期増加額、当期減少額の記載を省略しております。

2 当期減少額のうち( )内は内書きで減損損失の計上額であります。

3 当期減価償却費の配賦区分は次のとおりであります。

販売費及び一般管理費	492百万円
製造経費	62
計	<u>554</u>

なお、販売費及び一般管理費に配賦された金額のうち、23百万円は研究開発費に含めて表示しております。



【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	1,737	167	637	37	1,230
投資損失引当金	156	-	10	37	108

- (注) 1 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、洗替によるもの35百万円、個別引当された額の回収によるもの2百万円であります。
- 2 投資損失引当金の「当期減少額(その他)」は、対象となった海外子会社に対する外貨建て投資の為替評価替えによるものであります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

流動資産

イ 現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	10
預金の種類	
当座預金	42,128
普通預金	2,687
別段預金	7
小計	44,823
計	44,834

ロ 受取手形

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
サミー株式会社	154
株式会社ノーリツ	150
株式会社ヨコオ	111
大日本スクリーン製造株式会社	86
第一電装部品株式会社	81
その他	1,381
計	1,966

(ロ) 期日別内訳

期日	金額(百万円)
平成25年4月満期	636
平成25年5月 "	470
平成25年6月 "	477
平成25年7月 "	284
平成25年8月以降満期	97
計	1,966

八 売掛金

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
三菱電機株式会社	9,286
株式会社ワコム	4,816
三菱電機トレーディング株式会社	4,538
株式会社日立製作所	1,981
住友電装株式会社	1,560
その他	31,113
計	53,296

(ロ) 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (百万円) (A)	当期発生高 (百万円) (B)	当期回収高 (百万円) (C)	当期末残高 (百万円) (D)	回収率 = (%) $\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	滞留期間 = (カ月) $\frac{(D)}{(B)} \times 12$
65,517	151,513	163,734	53,296	75.4	4.2

(注) 当期発生高が売上高と一致しないのは、消費税等を含み破産更生債権等を除いているためであります。

二 棚卸資産

科目	区分	金額(百万円)
商品及び製品	半導体事業	10,442
	電子部品事業	1,872
	電子機器事業	931
	生産事業	133
	小計	13,380
原材料	生産事業	114
仕掛品	半導体事業	73
	生産事業	40
	小計	113
計		13,608

流動負債  
イ 買掛金

相手先	金額(百万円)
ルネサスエレクトロニクス販売株式会社	5,899
アルプス電気株式会社	3,319
コーセル株式会社	1,236
日本電気株式会社	1,099
エルピーダメモリ株式会社	1,079
その他	7,092
計	19,727

## (3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り及び売渡し	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	-
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
売渡手数料	同上
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL <a href="http://www.ryosan.co.jp/jpn/koukoku/index.html">http://www.ryosan.co.jp/jpn/koukoku/index.html</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない旨、定款に規定しております。

会社法第189条第2項各号に掲げる権利

会社法第166条第1項の規定による請求をする権利

株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

株主の有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売渡すことを請求する権利

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類、有価証券報告書の確認書

事業年度 (第56期)	自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日	平成24年6月25日 関東財務局長に提出。
----------------	-----------------------------	--------------------------

#### (2) 内部統制報告書

事業年度 (第56期)	自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日	平成24年6月25日 関東財務局長に提出。
----------------	-----------------------------	--------------------------

#### (3) 四半期報告書、四半期報告書の確認書

第57期第1四半期	自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日	平成24年8月10日
第57期第2四半期	自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日	平成24年11月14日
第57期第3四半期	自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日	平成24年2月14日 関東財務局長に提出。

#### (4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書	平成24年6月25日 関東財務局長に提出。
---	--------------------------

#### (5) 自己株券買付状況報告書

平成25年3月4日  
平成25年4月2日  
平成25年5月8日  
平成25年6月5日  
関東財務局長に提出。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成25年 6月21日

株式会社 リョーサン  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 三 澤 幸 之 助

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 岩 下 万 樹

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社リョーサンの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社リョーサン及び連結子会社の平成25年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。



#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社リョーサンの平成25年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、株式会社リョーサンが平成25年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
  - 2 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成25年6月21日

株式会社 リョーサン  
取締役会 御中

### 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 三澤 幸之助

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 岩下 万樹

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社リョーサンの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第57期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

#### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社リョーサンの平成25年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。